

14.5

103

和歌山縣史蹟名勝天然記念物調査會報告 第三輯



始



緒言

本書ハ小川調査委員外十二名ヨリ第二輯發刊以降今日ニ至ルマデ
 ノ間ニ提出セラレタル調査報告ヲ集録シタルモノニシテ編輯ノ形
 式ハ凡テ第二輯ニ準ジタリ即チ調査委員ノ報告ハ之ヲ史蹟・天然記
 念物ノ二種ニ別チ各種之ヲ海草・那賀・伊都・有田・日高・西牟婁・東牟婁郡
 ノ順ニ排列シ次ニ前回ニ漏レタル和歌山市並ニ海草・伊都兩郡ノ報
 告ニ係ル調査一覽ヲ採録シ又別ニ附録トシテ本年二月五日開會ノ
 本縣史蹟名勝天然記念物調査會通常會ニ於ケル協議事項ヲ登載シ
 タリ第二輯ト併セテ本書ヲ通覽シ斯種ノ考証研究上更ニ一段ノ歩
 武ヲ進メラレムコトヲ望ム

大正十三年三月

和歌山縣

大正
 13. 6. 6
 内文

14.5-103

目次

史蹟

- 一 大和街道ノ松並木
- 二 高野山町石
- 三 ゆかんの森
- 四 向山ノ古墳
- 五 片山ノ古墳
- 六 津井王子社
- 七 瀧尻王子社
- 八 濱ノ王子權現社
- 九 發心門王子權現社
- 一〇 和泉式部供養塔
- 一一 音無里 音無山 音無川

一 二 四 六 七 七 八 〇 一 三 五

- 一二 大阿刀足尼ノ碑
- 一三 薩摩守平忠度誕生地

天然記念物

- 一 西濱ノ根上リ松
- 二 高野ノぐみ
- 三 高野山ノ植物群
- 四 くまがいさうノ群落
- 五 信太神社ノ樟樹
- 六 十五社ノ樟樹
- 七 自生ノ櫟樹
- 八 アブス
- 九 椿ノ老樹
- 一〇 イチジュクサボテン
- 一一 白檀ノ老樹

一七 一六
一九 二〇
二二 二四
二五 二六
二七 二八
二九 三〇
三一

- 一二 膽八樹ノ老木
- 一三 化石(シダリス、羊齒、蘇鐵、アンモンナイト)
- 一四 橋ノ自生
- 一五 姥目ノ老樹
- 一六 びやくしんノ自生地
- 一七 やつしろん
- 一八 蟻通神社ノ樟樹
- 一九 鬼橋ノ岩
- 二〇 はかまかづらノ北限自生地
- 二一 馬目ノ大木
- 二二 りうびんたい
- 二三 をがたまのき
- 二四 竹柏
- 二五 ゆのみねしだ

三二 三一
三二 三五
三八 四〇
四一 四二
四二 四三
四三 四四
四四 四五
四五 四八
四八 四九
四九 五〇

寫眞版

- 一 義有王ノ御墓
- 二 若宮八幡宮
- 三 十郷神社
- 四 西濱ノ根上リ松
- 五 くまがいさうノ群落
- 六 信太神社ノ樟樹
- 七 十五社ノ樟樹
- 八 ア プ ス
- 九 椿ノ老樹
- 一〇 いちじゆくさぼてん
- 一一 白檀ノ老樹
- 一二 膽八樹ノ老木
- 一三 化石(羊齒、蘇鐵、アンモンナイト)

- 一四 姥目ノ老樹(甲株、乙株)
- 一五 鬼橋 岩
- 一六 はかまかづら
- 一七 神島ノ遠景
- 一八 馬目ノ大木
- 一九 りうびんたい(其一、其二、全景)

和歌山縣史蹟名勝天然記念物調査會報告 第三輯

史蹟

一 大和街道ノ松並木

委員 小川由一報告



一所在 地 那賀郡小倉村

一由來並ニ現狀 紀ノ川ニ架セル岩出橋ノ南詰ニ於テ大和街道ヲ西ニ進メバ小倉村上三毛新田ヨリ下新田、新庄等ニ亘リ松並木アリ言フマデモナク舊幕時代ノ遺物ナリ

余ハ先年同街道中那賀海草兩郡ノ境界附近ニアリシ俗稱馬次ノ松並木ガ無慙ニモ伐採セラレテ往古ノ遺物タル好箇ノ記念物ヲ失ヒ又其ノ地方風致ノ甚ダシク害セラレタルコトヲ痛惜シ心私カニ當局並ニ地方人ガ此ノ方面ニ無關心ナルコトヲ嘆ゼシガ當松並木ハ之ニ及バズト雖凡同一歴史ヲ有シ而カモ前記ノ如ク今尙ホ上三毛新田附近ニ点々トシテ殘存スルヲ見、多少自ラ慰メ

二
ツ、今日ニ至レリ然レド當松並木ト雖凡何時如何ナル口實ノ下ニ伐採ノ厄ニ罹ランモ計リ難ケ
レバ今ニ於テ之ヲ史蹟又ハ天然記念物トシテ保護ヲ加フルノ必要ヲ痛切ニ感ジ此ニ之ヲ提出ス
ルコト、セリ

附記

尙ホ和歌山市外地藏ノ辻西方ノ松並木、並ニ和歌山市ヨリ和歌浦町ニ通スル街道ノ松並木モ前
記ト同一ノ理由ニヨリ之ヲ保護セラレンコトヲ望ム

二 高野山町石

二百十七臺外ニ一里石四臺

委員 井村米太郎報告

一由來ト現状 此ノ町石ハ元ト弘法大師ガ高野山開創ノ後參詣登山者ノ爲メニ木ニテ卒都婆ヲ
作リテ道筋ニ建アラレシヲ濫觴トス其ノ後約四百五十年同山遍照光院覺教上人發願ニテ東西ニ
勸發シ上ハ後嵯峨上皇ヲ始メ奉リ下ハ鎌倉北條家其他諸大名以下ノ寄進ヲ得拮据十餘年ヲ經テ
文永年間ニ至リ遂ニ此ノ町石ヲ建立スルコトヲ得タリ其ノ願文ハ今モ現存ス

此ノ町石ハ唯町數ヲ示セルノミナラズ金剛界胎藏界ノ佛種タル梵字ヲ刻シ施主名法名ヲ刻セリ
大塔ヲ中心トシ奥院ニ至ル三十七臺ハ金剛界三十七尊ヲ標シ又慈尊院ニ至ル百八十臺ハ胎藏界
百八十尊ヲ標ス參詣人ヲシテ不知不識ノ裡ニ信念ヲ培養シ追遠ノ孝志ヲ起サシムル感應アルベ
シ

外ニ里石アリ同形ニシテ三十六町毎ニ立テリ即チ一里石ハ百四十四町石ノ側、二里石ハ百八町
石ノ側、三里石ハ七十二町石ノ側、四里石ハ三十六町石ノ側ニ在リ何レモ町石ト同時代ノ建立
ニカ、リ町石ニ附屬スルモノナリ當時三十六町ヲ以テ一里トセシ規定ヲ確証スベキ歴史上ノ好
徵證タリ

往昔天皇御臨幸ノ際ニハ皆此ノ道ニ由ラセ給ヘリ殊ニ後宇多法皇ニハ鳳輦ヲ捨テサセ給ヒテ町
石毎ニ玉步ヲ停メテ御念誦アラセ給ヒシガ如キハ畏キコトノ極ミト申スヘシ

斯ク尊キ由緒ヲ有スルニ明治維新ノ際寺領奉還山林上地ノ結果胎藏界ノ七町ヨリ五十四町迄ハ
官林トナリ五十五町ヨリ百八十町ニ至ル間ハ各個人ノ所有地トナリテ保存上頗ル不安ノ感ニ堪
ヘズ

備考

高野山町石ハ曩ニ和歌山縣史蹟名勝天然記念物調査會報告第二輯史蹟ノ部第七ニ登載セシモ其ノ後井村調査委員ヨリ更ニ一部追補ノ報告ニ接シタルヲ以テ此ニ重テ之ヲ掲載シタリ

四

三 ゆかんごの森

委員 阪本周吉報告

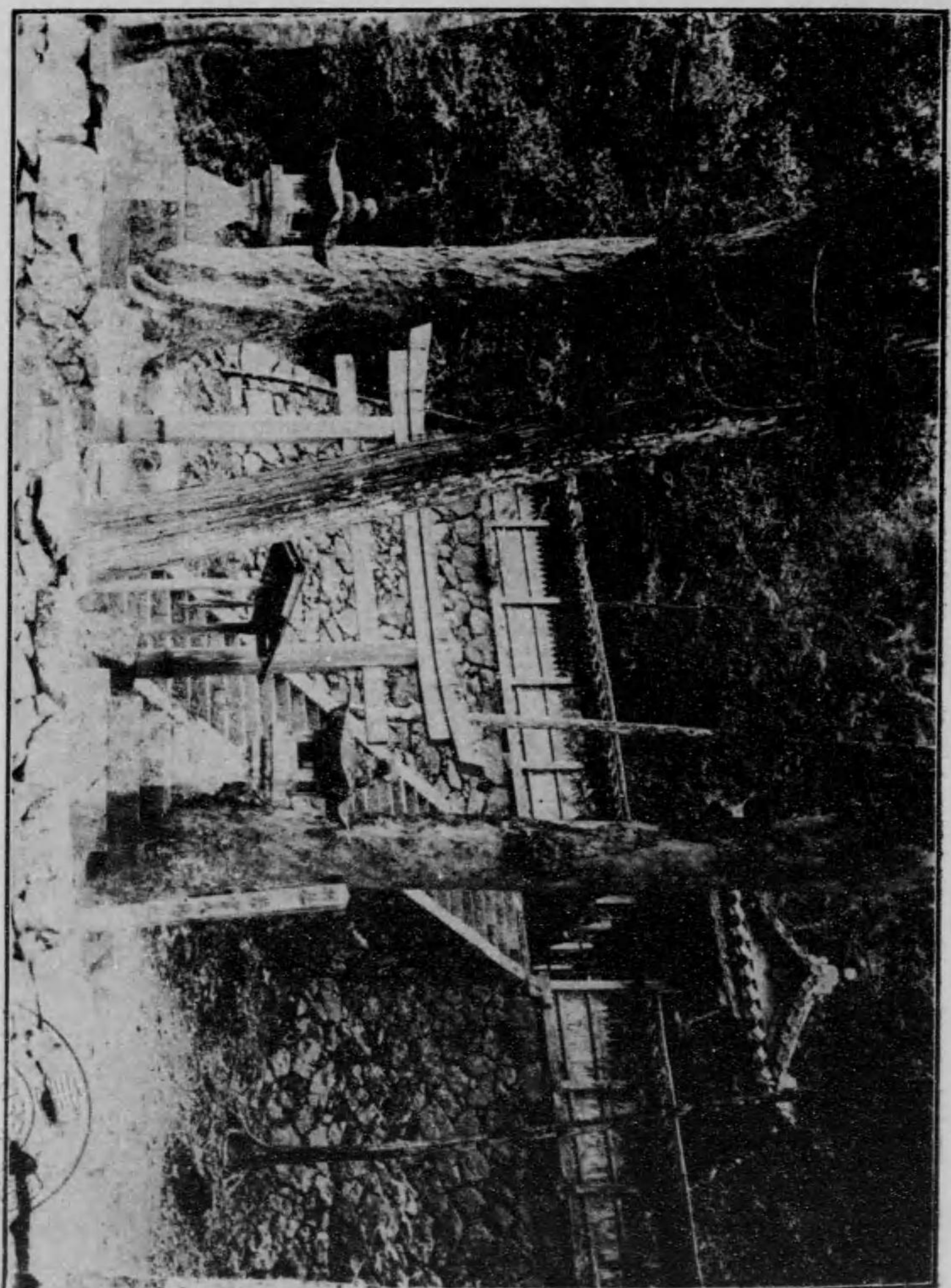
- 一 所在地 有田郡御靈村大字吉見字向垣内
- 一 地目 山林
- 一 地積 二十九坪
- 一 所有者 官有地
- 一 現狀并ニ由來傳説

義有王ノ御墓所ハ大字吉見ノ中央南東方小丘陵ノ上、樹林ノ中ニアリ、饅頭塚ノ形ヲナシ周圍ニ竹垣ヲ繞ラシ樹木雜草相繁リテ存ス

村民古老ノ言ヲ聞キ調べシニ王ハ湯淺城ニ據リシモ防戦利ナク潛ニ城ヲ出テ間道山田村ヲ經テ山阪ヲ越ヘ其峠吹キ上ケ山ノ阪ヲ降り吉見村ノ山麓一小溪ノアル側ニ參ラレ進退谷マリ遂ニ御



義有王ノ御墓



若宮八幡宮



自害アラセラレシガンノ後村民其ノ土地ヨリ少ク離レタル小丘陵ノ地ニ改メテ御埋葬申上ゲタ
リ御自害セサセ給ヒシ土地ハ少シク凹ミ之ニ水ヲ湛ヘテ古池トナリ其ノ近傍ニ王ノ平常御愛護
アラセラレシ神鏡ヲ奉納セシガ此レ今ノ若宮八幡社ナリト

御墓ノ中央ニ一小石碑アリ長サ三尺幅六寸許ニシテ上部ニ梵字

飛也

ノ三字ヲ刻ス

此ノ意味ハ三尊來迎ノ種字ト解ス右ハ彌陀ガ其ノ臣下觀音ト勢至ノ二尊ヲ伴ヒ此ノ俗界ヨリ淨
土ニ來ル者ヲ歡ビ迎ヘテ安心サスノ意味ナラン普通ノ塔婆又ハ石塔ニ多ク記ス所ナリ梵字ノ下
ニ漢字アルモ摩滅シテ讀ムヲ得ズ

尙ホ此ノ地ヨリ東北方約八町ヲ距テ、妙見ノ森アリコレ王ノ弟君ガ御自害セラレシ土地ニシテ
又此ノ村ヨリ奥村ニ越ス西方ノ峠ニ一ノ森アリ入道ノ森ト稱シ王ノ臣下伊勢某ノ自殺セシ土地
ナリト云ヒ傳フ

備考

ゆかんと森ニ就テハ和歌山縣史蹟名勝天然記念物調査會報告第二輯史蹟ノ部第十三ニ委員佐

々木定信氏ノ報告アルモ此ニ阪本委員ヨリ別箇ノ報告ヲ得タルヲ以テ之ヲ掲載ス讀者ノ合セテ之ヲ参照セラレンコトヲ望ム

六

四 向山ノ古墳

委員 森 彦太郎報告

一所在地 日高郡東内原村大字荆木字向山

一地目 山林

一所有者 日高郡東内原村

一形状構造大小數量 圓墳二基

一現狀 完全ニ存スルモ開墾許可區域ニ屬スルヲ以テ鋤犁將ニ及バントス

一保存要件 日高地方ニハ古墳濫掘ノ弊風アリ而モ縣勸業當局ガ開墾ノ許可ヲ決スル場合毫

モ史蹟ノ有無ヲ考慮セラレザルノ一方ニ於テ古墳破壊ノ犯跡顯著ナルモノアルモ毫モ司法權ノ

發動ヲ見サルカ故ニ弊ハ愈々増長セントス故ニ保存ノ要件トシテハ

一、縣勸業當局者及警察當局者ノ猛省

二、古墳ニ關スル知識ノ普及

三、此ノ古墳ニ對スル應急措置

五 片山ノ古墳

委員 森 彦太郎報告

一所在地 日高郡東内原村大字荆木、大池ノ北丘山

一地目 山林

一所有者 未詳

一形状構造大小數量 圓墳一基

一現狀 封土崩レ玄室内ヲ窺クコトヲ得

一保存要件 此ノ附近ニアリシ塚穴(紀伊續風土記所載)ハ全ク破壊サレテ痕跡ヲモ止メズ

古墳ノ殘存スルモノ今ハ僅ニ此ノ一基ノミ故ニ特ニ愛護セザルベカラズ

六 津井王子社址

七

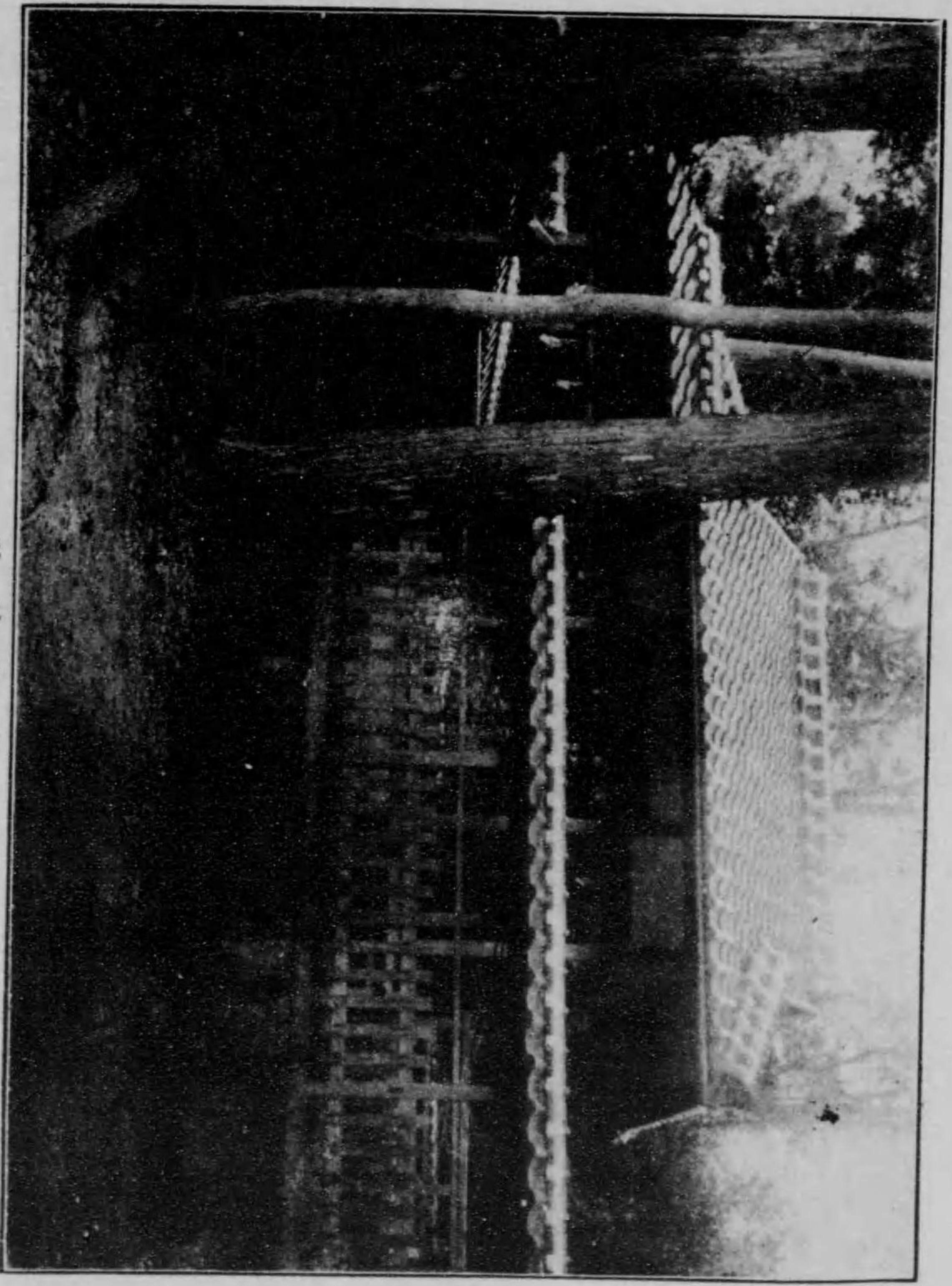
委員 森 彦太郎 報告

一所在地 日高郡印南町大字印南
 一地目 山林
 一所有者 村社八幡神社
 一現狀 社ハ山口八幡神社ニ合祀濟ナルモ而モ尙村民敬仰ノ中心トシテ社跡ニ遙拜所ヲ營メリ
 一保存要件 現狀ノ儘ヲ可トス此ノ上ノ加工モ不可、老樹伐採ハ斷シテ不可

七 瀧尻王子社

委員 宇井 纒 藏 報告

一所在地 西牟婁郡栗栖川村大字栗栖川字平原八百五十九番地
 一地目 官有地
 一地積 六百六十二坪
 一管理者 西牟婁郡栗栖川村 十郷神社



十郷神社

一現狀、由來、傳説等 熊野九十九王子ノ一ニシテモト瀧尻王子社ト稱セシガ明治四十一年十一

月二十六日許可ヲ得テ十郷神社ト改稱シ同時ニ合祀祭神ヲ配祀セリ

史ヲ按スルニ後鳥羽院熊野行幸ノ時建仁元年十月十四日此ノ所ニ於テ和歌御會アリ御幸記ニ曰ク

昇^ニ崔嵬嶮岨、入^ニ瀧尻宿所、河灘韻忙巖石之中也、入^レ夜給^レ題即詠^レ之持參如^レ例、披講之間參入讀上退出、參^ニ此王子^ニ歸^ニ宿所^ニ。

權中納言定家ノ和歌ニ

河邊落葉

そめし秋をくれぬとたれか岩田川

また浪こゆる山姫の袖

旅宿冬月

瀧川のひきははいそく旅の庵を

静かにすすくる冬の月影

傳ヘイフ 往時藤原秀衡妻ヲ携ヘテ熊野本宮ニ參詣スソノ妻臨月ニテコノ地ニ至リ産ノ氣アリ

人家ナキヲ以テ社邊ノ岩窟ニテ和泉三郎ヲ生ムソノ時立願シテ安産ヲ得タリ因テ七堂伽藍ヲ造營シテ諸經ヲソノ堂中ニ納メ依リテ秀衡堂ト號セシガ天正ノ兵亂ニ破壊セリト堂舎ノ址今明カナラズ

神寶ニ小太刀(銘有次)矢根、鈴ノ三品アリ之レ秀衡ノ奉納スル所ナリト

一保存ノ要件 王子社ハ十郷神社トシテ完全ニ保存セラル、モ史蹟トシテ指定スル必要アリト思フ

宿所ノ跡ハ今耕地トナリ居レリトイヘバ精査ノ上標木位ハ建テ置ク必要アラン

八 濱ノ王子權現社址

委員 小野芳彦報告

一所在地 東牟婁郡新宮町下熊野地

右下熊野地王子權現社址ニ就キテハ已ニ田原委員ヨリ報告ニ及ベル通り當王子社ハ熊野九十九王子中由緒殊ニ深キ王子ニシテ東京府下ナル王子神社ハ後醍醐天皇ノ元享二年(皇紀一九八二年)ノ秋豊島左近太夫景村此ノ王子ヲ勸請シ行キ豊島、足立、多摩、兒玉、新倉五郡ノ産土神トシテ

創建セシ所ニカ、リ景村ハ同時ニ上熊野地ナル飛鳥權現ヲモ勸請シユキ社ヲ同所芝生ノ岡ニ造營シテ飛鳥ノ名ヲ冠ラセシガソノ後寛永年中飛鳥社ヲ王子社ニ合祀シ元文ノ頃將軍家ノ命ニ依リソノ跡ニ櫻樹ヲ栽植シテ士女遊覽ノ地トナセルコトハ幕府ノ儒臣成島道筑ガ將軍家ノ命ヲ承ケテ撰ミタル飛鳥山碑ノ銘ニ詳記セル所ナリ又古雅ヲ以テ聞ユル王子神社ノ花踊トイフ祭モ當年此ノ地方ヨリ移シユケルモノナリト云フ

當王子社ハ明治四十年上熊野地ナル阿須賀社ニ合祀セラレ今ハ廢社トナリ居ルモ社殿ハ原ノマ、ニ存シ下熊野地區民ノ崇敬更ニ變ラズ熱誠復舊再興ヲ願望シツ、アリ三里村大字三越發心門王子址ト共ニ速ニ保存史蹟ニ指定セラレンコトヲ切望スルナリ

九 發心門王子權現址

委員 小野芳彦報告

一所在地 東牟婁郡三里村大字三越字上久保

一地 區有地

一地 積 二段五畝

一所有者 東牟婁郡三里村 三里神社

一所有者以外ノ管理者 ナシ

一工 作 物 石碑一基

一現 狀 明治四十年三里村大字伏拜字萩村社三里神社ニ合祀セラレテ廢社トナリ今ハ約

一畝歩許ノ地ニ一基ノ碑ヲ建テラレタルノミ舊社地内ニハ櫻及杉ノ植込ミアリ

一由來傳説等 發心門王子ハ熊野九十九王子中最モ古クヨリ世ニ聞コエタル王子ニシテ藤原定

家卿ノ後鳥羽院熊野御幸記(建仁元年十月)ニモ

十五日午時許著「發心門」宿ニ南無房宅。此道之間常不具筆硯。又有所思未書一事。

他人大略每王子一書著。此門柱始書「付一首」發心門一首

惠日光前懺罪根 大慈道上發心門

南山月下結緣力 西刹雲中弔旅魂

いりがたきみのりのみかどけふすぎぬ

今より六つのみちにかへすな

今日王子湯河、次猪鼻次發心門、此王子實前殊發信心。紅葉齋風竇殿上、四五尺木無隙

生。多是紅葉也。社後有「此尼南无房堂」(下畧)

ト見エ殊ニ由緒アル遺蹟タリ南無房ノ宅址ハ今何物ヲモ留メズ隨ツテソノ地詳ナラズ

一徵証書類 明月記其ノ他

一保存要件 上記ノ如ク此ノ王子ハ其ノ名古クヨリ聞エ世人ノ信仰淺カラズ『紅葉齋風竇

殿上』トアルニ徵スレバ往時ハ相應ノ社殿ノ營マレアリシヲ知ルベキモ今ハ掌大ノ地ニ一基ノ

紀念碑ノ立テルヲ見ルノミ現在ノマ、ニシテ經過センニハ南無房ノ宅址ト同シク終ニハ湮滅シ

テ尋ヌルニ由ナキニ至ランモ知ルベカラズ一日モ速ク保存スベキ史蹟ト指定セラレ相當保護ノ

道ヲ講ゼラレンコトヲ冀望スルナリ

一〇 和泉式部供養塔

委員 小野 芳彦 報告

一所在地 東牟婁郡三里村大字伏拜字岸本

一地區有地

一積 約一坪

一所有者 東牟婁郡三里村大字伏拜區

一、所有者以外ノ管理者 ナシ

一工 作物 石塔一基

一現 狀 一基ノ石塔伏拜ヨリ本宮ニ至ル街道ノ傍(本宮ヨリ二十町許)ニ建テラレアリ

里人歳時花ヲ手向ケツ、アリ

一由來傳説等 傳ヘ云フ昔和泉式部熊野詣ニ月事ノ穢ヲ憚リテ奉幣セズ此ノ處ニテ遙拜シ空シ

ク歸ラントセシニ其ノ夜靈夢アリテ參詣スルコトヲ得タリ故ニ後年供養ノ爲ニ此ノ石塔一基ヲ

建テタリトイフ碑面ニハ文字ナシ 續千載集ニ

もろともに塵にまじはる神なれば

月のさはりも何かくるしき

註 是は和泉式部熊野へまうでたりけるにさはりにて奉幣かなはざりけるに

晴やらぬ身の浮雲の棚引て

月のさはりとなるぞかなしき

とよみてねたりける夜の夢に告させ給ひけるとなん

ト見ユ伏拜ノ地名モコレヨリ起レリトイヒ傳フ

一一 音無里 音無山 音無川

委員長 小野芳彦報告

一所在地 東牟婁郡本宮村

イ、音無里 今ノ本宮村ナリ本宮ノ稱ハモト熊野坐神社ヲ呼ベルモノナリシヲイツノ頃ヨリ

カ地名ニ呼ビ做シ來レルナリ

音無しの里の秋風夜を寒み (夫木抄 民部卿定家)

忍ひに人や衣うつらん

ロ、音無山 廣ク本宮附近ノ山ヲイフ

音無の山の下ゆくさざれ水 (家集 伊勢)

あながま我も思ふ頃かな

ハ、音無川 三里村大字伏拜ヨリ來リ本宮ノ町ヲ貫流シテ熊野川ニ入り之ニ架セル橋ヲさま

やきの橋トイフ清少納言ノ枕草子ニモ『川はれとなし川ねもはずなる名とをかしきな

り」ナド見エ其ノ名知ラレタルヨリ熊野川ノ一名ニ呼ビ做スコトアリ古來之ニ關スル和歌多シ

はるく〜とさかしき峯を分過て

(後鳥羽上皇御製)

音無川をけふ見つるかな

音無しの川とぞつひに流れ出る

(拾遺集 清原元輔)

いはて物思ふ人の涙は

熊野なる音無川にわたさばや

(夫木抄 よみ人知らず)

さみやきの橋しのびしのびに

一二 大阿刀足尼ノ碑

委員 小野芳彦報告

一所在地 東牟婁郡四村大字湯峰

一地区目 區有地

一積積 約四坪許

一所有者 東牟婁郡四村大字湯峯區

一所有者以外ノ管理者 ナシ

一工作物 石碑一基

一現狀 湯峯温泉場、本宮ヨリスル入口通路ノ右傍警官駐在所ノ隣地ニアリテ三方ニ低

キ石垣ヲ築ケル中ニ一基ノ石碑立テリ熊野國造大阿刀足尼……ノ文字ヲ刻セリ

一由來傳説等 湯峯温泉ハ成務天皇ノ御朝熊野國造タリシ大阿刀足尼ノ發見セラレシ所トイヒ

傳ヘアリ此ノ碑ハ其ノ徳ヲ紀念スルタメ後世建テタルモノナルベシ

一三 薩摩守平忠度誕生地

委員 小野芳彦報告

一所在地 東牟婁郡九重村大字宮井字音川

一地区目 私有宅地

一積積

一所有者 東牟婁郡新宮町 植松新十郎

- 一所有者以外ノ管理者 ナシ
- 一工 作 物 木造家屋
- 一現 状 東牟婁郡新宮町植松新十郎氏所有ノ音川炭坑事務所トナレリ
- 一由來傳説等 平忠盛鳥羽法皇ノ命ヲ承ケ熊野新宮ニ來リシ時、時ノ熊野別當ノ女ト契リソノ女懷妊シテ此ノ地ニ來リ文武ノ名將薩摩守忠度ヲ生メリト云ヒ傳フ忠度ノ熊野ニテ生ヒ立チシコトハ平家物語、源平盛衰記等ニモ見ユル所ナリ

天然記念物

一 西濱ノ根上リ松

委員 勝田良太郎報告

- 一所在地 海草郡雜賀村大字西濱字上川向ノ坪一四八九番
- 一目的地 潮害防備林 雜種地
- 一積 七町四段一畝七步
- 一所有者 官有
- 一管理者 海草郡雜賀村長
- 一由來、現狀 和歌山ノ南郊七八町ニシテ此地ノ松凡テ其ノ根高クアラハレ鶴松、龜松、愛曳等ノ名アリ奇異ナルコトイフ計リナシ古歌ニ

津の國ののしくのあたり來て見れば
 松は根ことにあらはれにけり

ト紀伊名所圖繪ニアリ古來高松ノ根上リ松トテ其ノ名世ニ聞エタレド漸次朽チ果テ僅ニ存セシ

鶴松（幹ノ周圍一丈三尺、幹ノ高サ約七八間、根ノ最大ナルモノ周圍五尺五寸）モ縣知事ニ於テ仮指定中大正十一年同一運命ニ陥リ古來有名ナリシ高松ノ根上リ松ハ全クソノ跡ヲ絶ツニ至リタリ

現時根上リ松ノ猶ホ存スルハ和歌山縣師範學校地内ニアルモノ大小二十余株（此ノ中殊ニ大ナルモノ三株アリ）並ニ雜賀村大字西濱ニアルモノ六株トス殊ニ西濱ニアルモノ其ノ内ノ三株ハ幹ノ高サ、根ノ太サニ於テ高松ノ根上リ松ニ稍々劣ルモ根ノ高サハ之ニ譲ラズ而カモ此等ノ根ハソノ下部ニ於テ更ニ數條ニ分シ支根ノ數ハ此ノ方多シ村民ノ話ニ依レハ樹齡ハ三百五十年以上ナラント高松ノ根上リ松ノ全ク跡ヲ絶チタル今日其ノ繼承者トシテモ將又學術上ノ標本トシテモ貴重ナル天然記念物トシテ保存スヘキ價値アルモノト認ム

二 高野ぐみ

委員 笠 巴報告
委員 榎本佳樹補修

一 所在地 伊都郡高野村大字相ノ浦小字笠峠



鶴松ノ根上リノ西濱

一地 目 山林

一地 積 方三尺

一所 有 者 伊都郡九度山町 鐵田丈助

一形狀、大小、數量

葉 小ニシテ裏面赤色ヲ帶ブ 花 極小

幹 直立性 幹ノ周圍 約一尺二寸 高サ 約一丈五尺 枝共

一株

一現 狀 雜草ノ間ニ在リテ乱伐セララル

一從來ノ狀態 此マデ注意セシモノナク雜木ト混同視セララル

一指定ノ事由 本種ハンノ形態色彩等至ツテ地味ナル灌木ニシテ且ツ効用ニ乏シキモノナレバ

從來人ノ注意ヲ惹クコトナカリシガ大正九年八月植物學ノ大家牧野富太郎氏ヲ聘シテ植物學ノ

講習會ヲ高野山ニ開キシ際初メテ講習員ニヨリテ發見セラレ爾來牧野氏ニヨリテ種々研究ノ結

果大正十二年十月愈々新種植物ナルコト確定セシカ牧野氏並ニ此レガ調査ニ力ヲ盡サレタル沼

尻好氏(高野中學教諭)ニ因ミ新ニ學名ヲ *Eleagnus Numajirii Makino* ト附ケラレタルモノナリ

將來他地方ヨリ發見セラル、コトアルヤモ知レザレドモ現今當地方ニテ發見セラレタルモノ僅ニ數株アルニ過ギザルヲ以テ免ニ角珍貴植物トシテ保存スヘキ價値アルモノト認ム
村民ハ此ノ植物ノ珍異ナルヲ知ラサル故或ハ伐リ取り或ハ拔キ去ル等ノ虞アリ故ニ該地ハ其ノ發見地トシテ亦永ク保存スル必要ヲ認ム

一保存ノ要件 周圍ニ柵ヲ設クルカ或ハ杭ヲ建テ、鐵條ヲ繞ラニカ相當保護ノ途ヲ講スルヲ要ス

備考 (余ハ相ノ浦區長ニ面會ノ機ヲ得シヲ以テ適當ナル保護ヲナスヤウ依頼シ置キタリ)

高野ぐみハ和歌山縣史蹟名勝天然記念物調査會報告第二輯天然記念物第一ニ登載セシモ今回榎本委員ヨリ更ニ修正追補ノ報告ヲ得タルヲ以テ茲ニ之ヲ再録シタリ

三 高野山ノ植物群

一所在地 伊都郡高野村

委員 小川由一報告

一現狀並ニ保護必要ノ理由

本縣ハ各種植物ニ富メルハ古來天下周知ノ事實ニシテ至ル所植物繁茂シ本州南部ノ植物帶ヲ有スルハ勿論縣ノ南部及ヒ海岸地方ハ氣候並ニ海流ノ關係上南方暖地性ノ植物ヲ産シ又約二千尺以上ノ高地ニアリテハ本州中部若クハソレ以北ノ植物體ヲ現ハセリ

然ルニ此ノ美ハシキ自然植物帶ガ近時開墾、植林、亂伐其ノ他ノタメ續々破壊セラレントシ殊ニ紀北地方ハ人口稠密ニシテ交通便利ナルタメ如上ノ弊害一層甚シク最早美ハシキ天然林ナキニ至リ唯高野山ノミハ天下ノ靈場タルノ故ヲ以テ古來幸ニ樹木ノ伐採ヲ免レ鬱々タル針葉樹林ノ下ニハ豊富ナル植物群ヲ藏シ珍奇ナル種類尠カラズ殊ニ其ノ種類ノ多キニ至リテハ蓋シ他ニ多クソノ比ヲ見ザル所ナラン

同山ハ今ヤ國有林ノ伐採、人工更新ノコトニヨリテ此ノ貴重ナル天然記念物ノ破壊セララル、アリ他方ニ於テ登山參拜ノ徒ガ妄ニ植物群ヲ毀損スルナキヲ保シ難ク此クテ年々歳々繼續セラレシカ可惜本縣否天下ノ寶庫モ全ク荒廢ニ歸シ後日ノ悔ヲ貽スニ至ランコト正ニ疑ナカルベシ此ノ故ニソノ破壊ノ未タ甚シカラザル今日ニ於テ一定ノ區域ヲ定メ適當ナル處置ヲ施シテ之ヲ保護シ妄ニ採集伐採スルヲ禁スルハ天下珍寶ノ消滅ヲ未然ニ防グ所以ニシテ誠ニ緊要ノ事ト思惟

シコ、ニ本案ヲ提出シテ尙ホ參考ノタメ左ニ高野山植物目錄ヲ添付スルゴト、セリ
備考

高野山植物目錄。收ムル所ハ山麓ヨリ山上一帶ニ亘ル地域ニ産スル羊齒植物門以上ノモノニシ
テ其ノ數ヲ表示スレハ

羊齒植物……………一四四

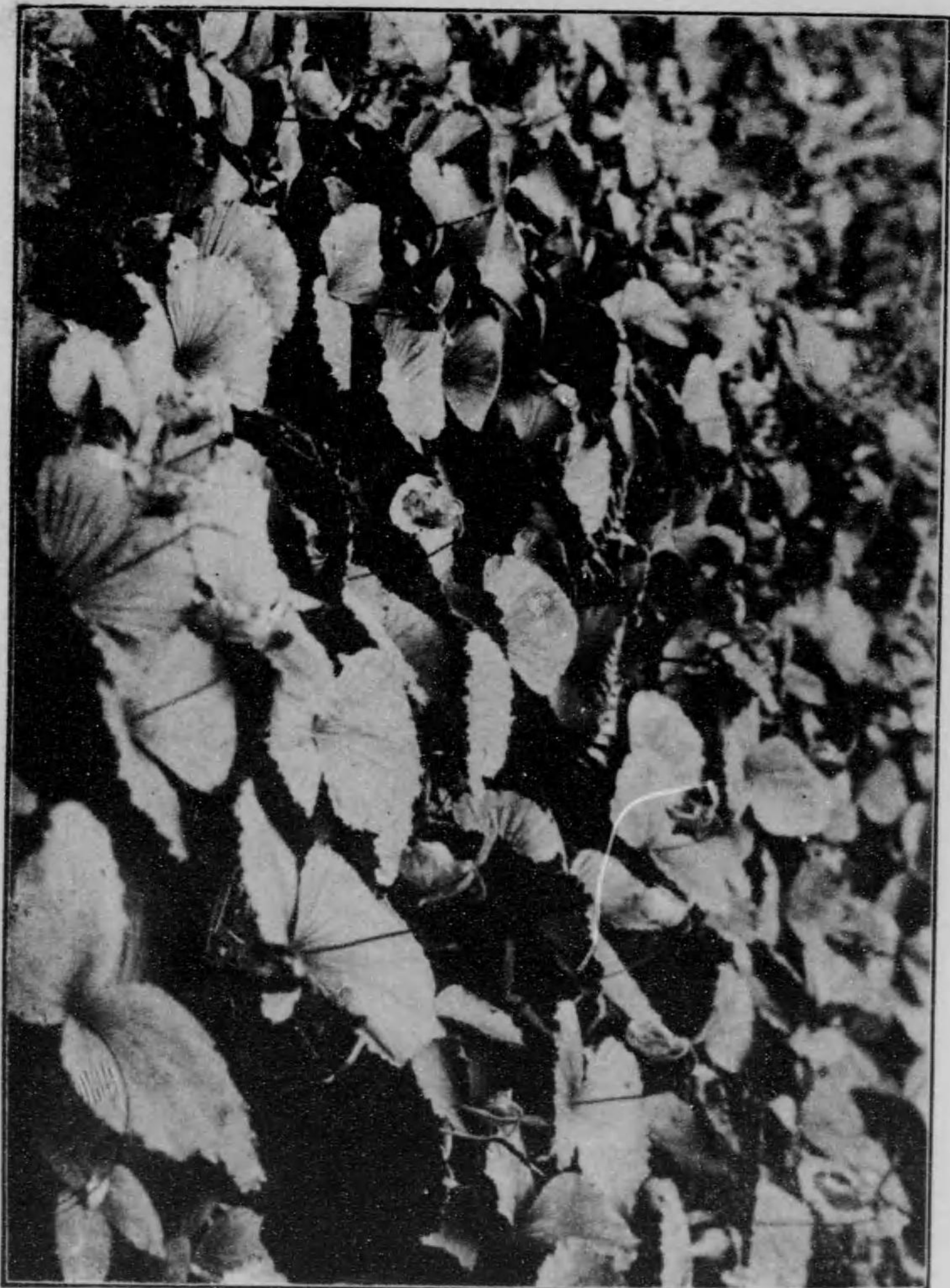
裸子植物……………二〇

被子植物一〇三五
 雙子葉類七五九
 離瓣花區……………四七六
 合瓣花區……………二八三

 單子葉類……………二七六

總計一一九九種ニ上リ之ヲ自然分科ノ順位ニ排列シ更ニ各科ニ於テハ頭文字ノ五十音順ニ從ヒ
ソノ和名ヲ記述シタルモノニシテ深ク小川調査委員ノ勞ヲ多トスルモ印刷ノ都合上此ニ之ヲ登
載シ難キヲ遺憾トス

四 くまがいさうノ群落



落群ノうさいがま

委員 小川由一報告

一所在地 伊都郡花園村

一現 狀 くまがいさうハ固ヨリ珍奇ナル植物ト稱シ難ク他ノ地方ニモ亦之ヲ産スレドモ

此ニ報告スル伊都郡花園村辻ノ茶屋附近山中ニ見ルガ如キ廣大ナル面積ニ亘リテ群落ヲナセル例ハ蓋シ他ニ尠カルベシ

同所ハ西北ニ面シ比較的急角度ヲナセル斜面ノ山懷ニシテ十五六年生ト思ハル、杉ノ植林地ナリ地表ハ腐植性ノ黒キ土壤ヲ以テ蔽ハレくまがいさうハ此ノ林中ノ下草トシテ群落ヲナシ其ノ密生セルコト恰モふき畑ヲ見ルガ如ク花時本植物固有ノ奇形ナル花ヲツク時ハ一種ノ奇觀ヲ呈ス左ニ掲クル寫真圖ハ大正十年六月四日日本縣博物學會有志者數氏ト共ニ同地ニ至リシ際余ノ撮影シタルモノナリ此レ亦天然記念物トシテ保護スベキ價值ノ十分ナルヲ認メ此ニ之ヲ報告スルコト、セリ

五 信太神社ノ樟樹

委員 益田之熙報告

一所在地 伊都郡信太村大字九重字丸山二八三

一地目 信太神社境内宅地

一地積 三十坪

一所有者 信太村 信太神社

一形状 樹齡詳ナラザルモ古老ノ言ニ依レバ約一千年ヲ經タルモノナラント地上約一丈

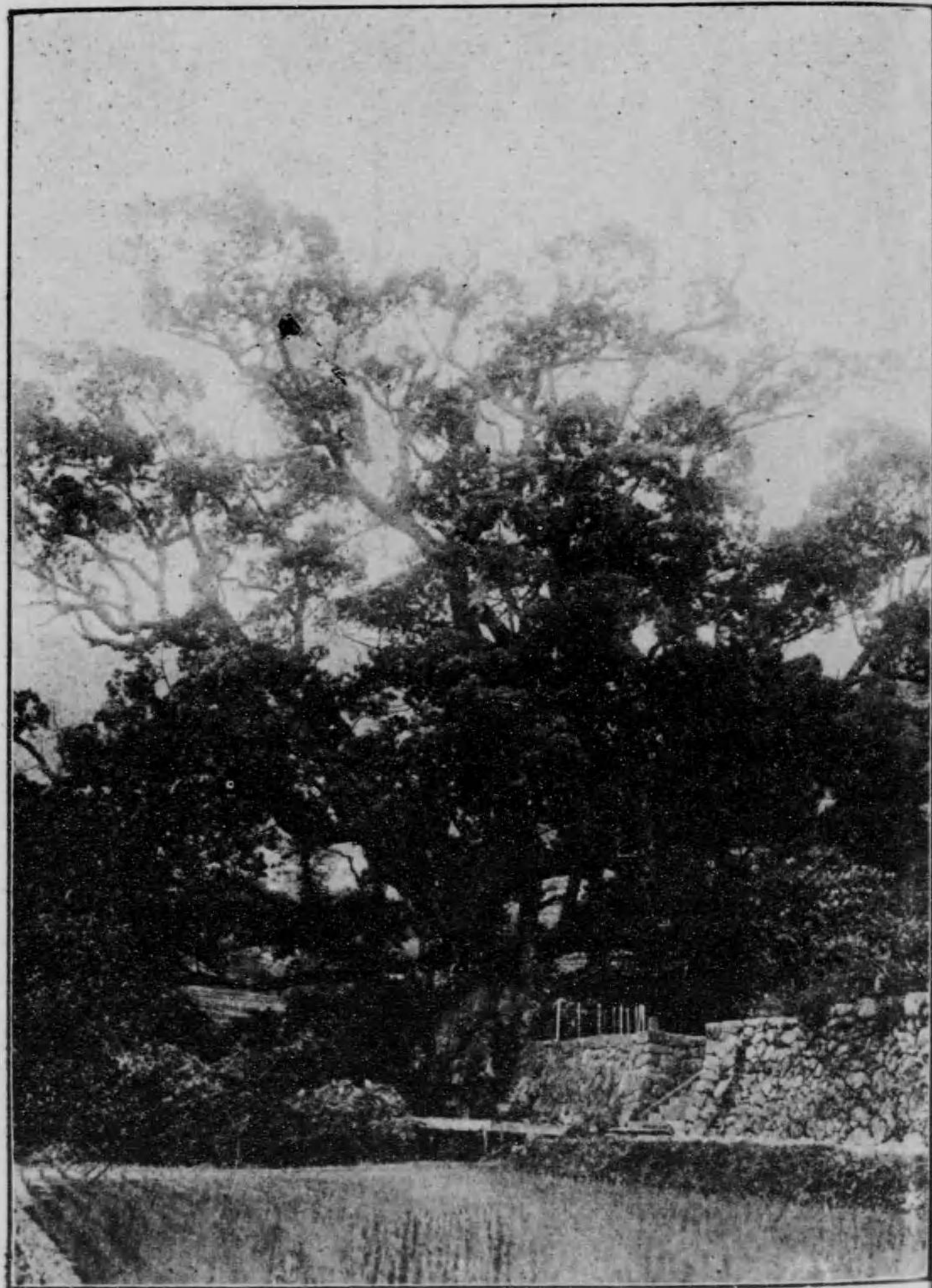
ノ處ニ於テ周圍四十尺許アリソレ以下ノ幹ハ三方土ヲ以テ埋メラレタルヲ遺憾トス幹瘤立チ奇觀ヲ呈ス

一保存ノ要件 本郡内稀ニ見ル老巨木ニシテ樹容頗ル壯大ナリ神木トシテ神社ノ尊嚴ヲ維持シ崇敬ノ念ヲ起サシムルニ必要ナルモノト認ム

六十五社ノ樟樹

委員 益田之熙報告

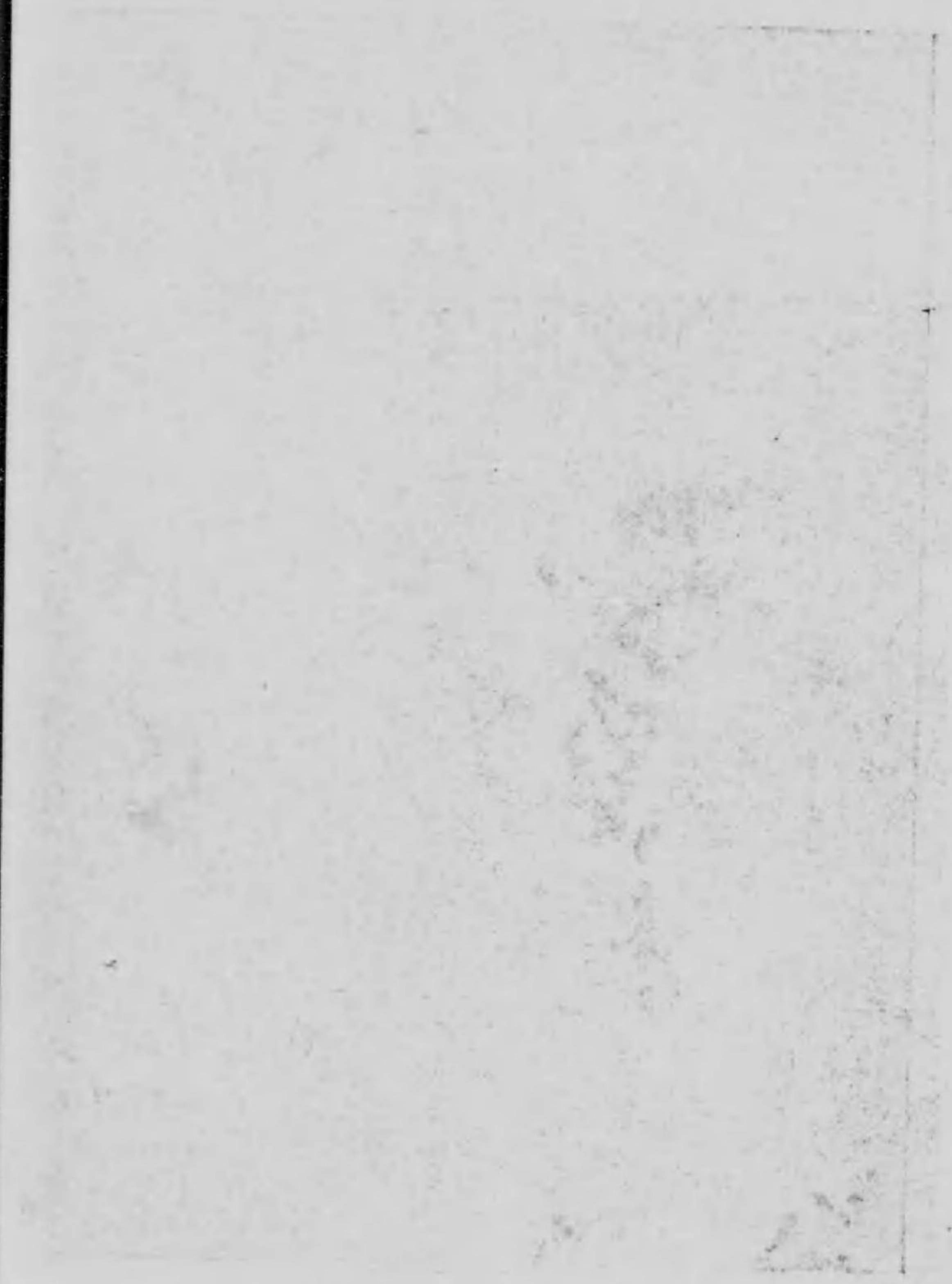
一所在地 伊都郡笠田町大字東字十五社五六三
一地目 妙樂寺境内宅地



信太神社ノ樟樹



樹樟ノ社五十



一地 積 約九坪
 一管理 者 藥師講者稻本忠兵衛外三十一名
 一形 狀 樹齡詳ナラサルモ稀有ノ老巨木タルヲ失ハズ株ノ根元數尺ノ上ヨリ八本ノ幹立
 ヽ其ノ全周圍ハ四丈四尺ニ及ヒ各枝盛ニ繁茂スルヲ以テ一樹ヨク森林ノ觀ヲ呈シテ壯觀ナリ
 一保存ノ要件 本郡内ニ於ケル信太神社ノ樟樹ト相對立シ名木巨樹トシテ保存ノ必要アリト認
 ム

七 自生ノ櫟樹

委員 益田之熙報告

一所在地 伊都郡高野口町字城跡七八五
 一目的地 八幡神社境内宅地
 一積 約一坪半
 一所有者 高野口町 八幡神社
 一形狀 幹ノ周圍一丈二尺ニ及ヒ高サ約四丈ニ達スルカ如ク二三百年以上ヲ經過シタル

モノ、如シ

一 保存ノ要件 樺樹トシテ稀ニ見ル巨木ナリト認ムルニ依ル

八 ア ア ス

委員 益田之熙報告

一 所在地 伊都郡隅田村大字芋生字松カ下四九〇

一 地目 二毛田

一 地積 二段一畝廿一步

一 所有者 伊都郡隅田村大字芋生字松カ下四九二 土井勝次郎

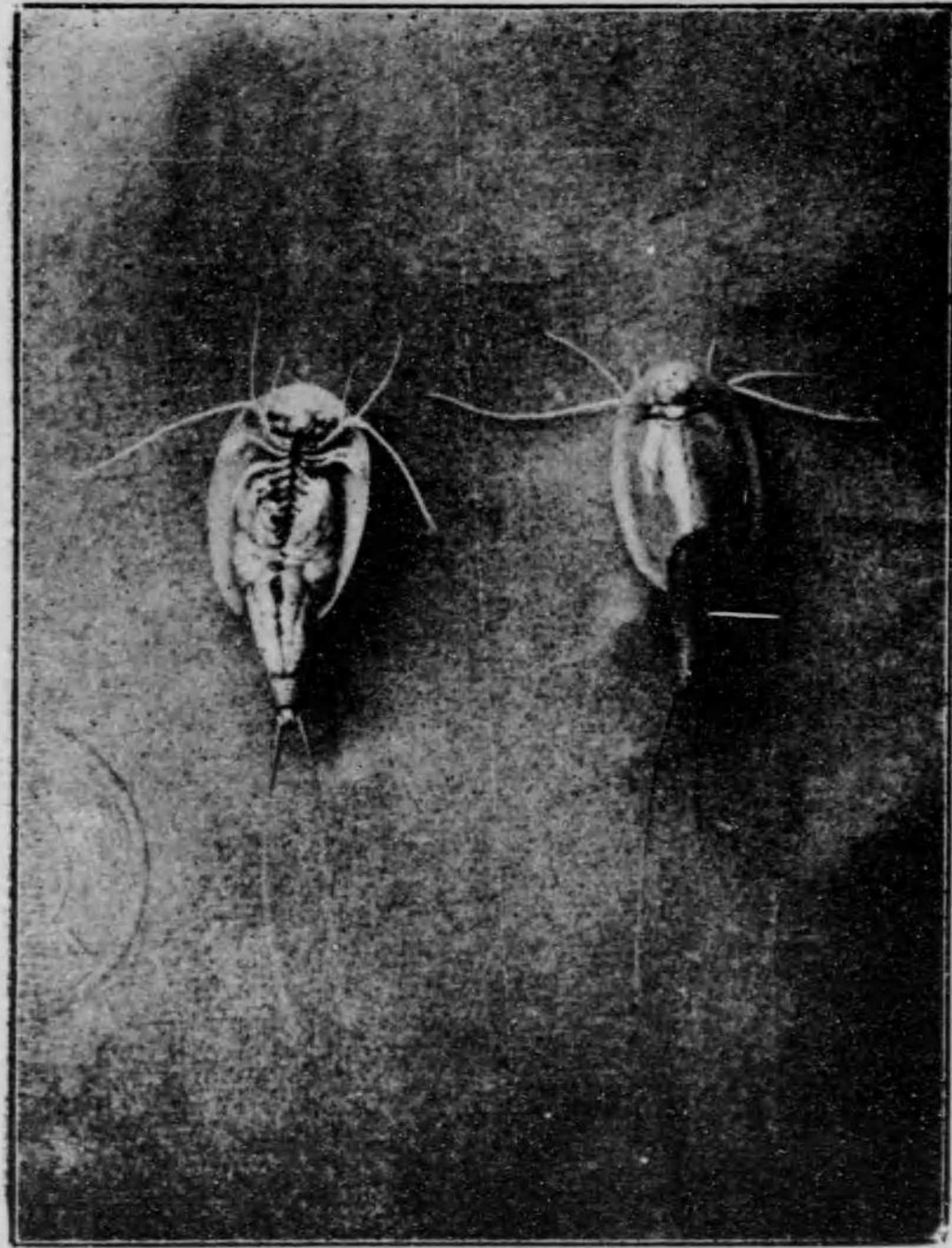
一 發見ノ來歴 大正十一年六月未頃地主土井勝次郎氏該水田除草ノ際無數ニ游泳スルヲ發見シ

タリ

一 發生ノ狀況 大正十一年六月二十日頃田植ヲ行ヒ其後約十日ヲ經過シタル後已ニ多數其ノ游

泳スルヲ認メシガ七月中旬ニ至リ全滅セシモノ、如シ

但該水田ニノミ限ラレテ發生シタルハ奇ナリト云フベシ



ス プ ア

一形 狀 寫真參照

一保存ノ要件 本邦稀ニ見ル動物ニシテ甲殼類中ノ直葉脚類ニ屬スルモノナリ將來ノ研究資料

トシテ保護ノ要アリト認ム

我國ニテハ數年前讚岐ニ於テ發見セラレ又奉天ニ於テモ發見セラレタリト云フ

飯島氏著動物學提要ニ二種ヲ舉ゲラレ

1. *Apus Canceriformis Schaff*

2. *Apus Glacialis Kr.*

寧ろ本種ハ2ニ類似スルガ如キモ詳細ナル記載ナキヲ以テ異同ヲ辨別シ難ク思フニ楯甲ニ於テ
稍異ナル点アルガ如シ

九 椿ノ老樹

委員 益田之熙報告

一所在地 伊都郡妙寺町大字中飯降一四八四

一地 目 宅 地

一地 積 三坪

一所有者 伊都郡妙寺町大字中飯降一四八四 北本彌八郎

一形 狀 住宅ノ西方ニ於テ南北ニ五株併立ス幹ノ最太キモノハ五尺乃至五尺三寸ニ及ブ

枝葉繁茂セリ

一保存ノ要件 北本氏四代前ヨリ既ニ植付ケラレタルモノニシテ今日マデノ年數ヲ知ルニ由ナ

キモ少クトモ二百年以上經過セルモノ、如ク椿トシテ斯ル老木ハ稀有ナリト認ムルニ依ル

一〇 イナシユクサボテン

委員 益田之熙報告

一所在地 伊都郡山田村大字吉原一二八

一地 目 宅地

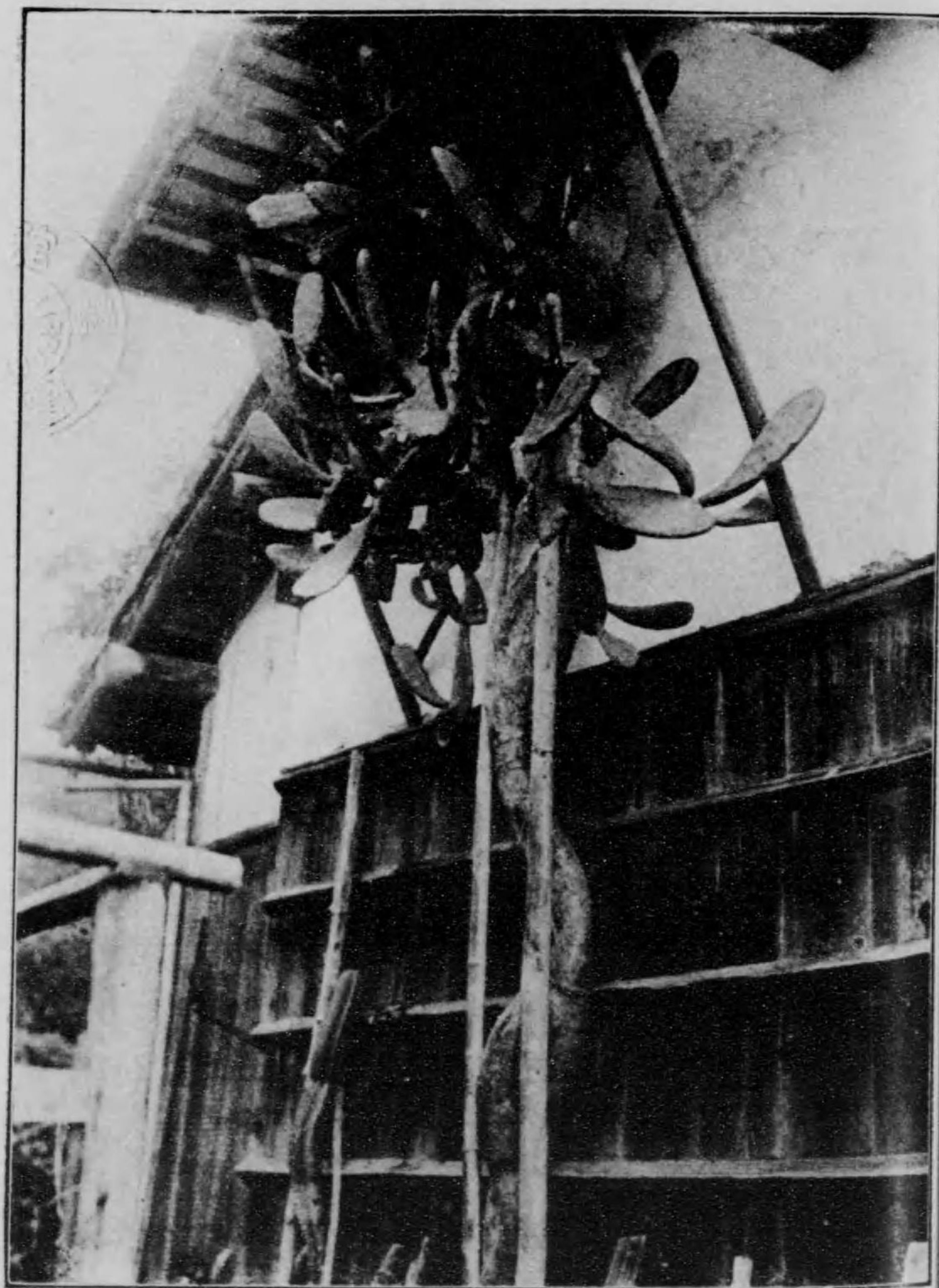
一地 積 一合

一所有者 伊都郡山田村大字吉原一二八番地 丹生みち代

一形 狀 莖ノ周圍二尺七寸一本立ニシテ上部ニ數條ノ枝ヲ生ズ初夏開花シ九月中旬結實



樹老ノ椿



んてぼさくゆじちい

ぼさく

ゆじちい

成熟スツノ肉果ハ味絶佳ナリト云フ

一 保存ノ要件 何レノ時代ニ移植セラレタルカ不明ナリ從ツテ其ノ年數ヲ知ルニ由ナキモ少ク
トモ五六十年ハ經過シタルモノ、如シ霜雪ノ防禦不十分ナルガ故ニ早春腐落スルコト多シト云
フ且ツノ枝ヲ藥用トスルトカニテ各所ヨリ要望セラレ年々新莖ヲ切斷スルコト多キガ如シ防寒
ノ裝置ト切斷禁止トヲ行ヒ保護スルノ要アリト認ム

参照

日本百科辭典第四卷九〇九頁ニ

イチジユクサボテン (新名) *Opuntia Ficusindica* ハ歐羅巴ノ南部ナル地中海沿岸地方及ヒシチ
リア島 (シシリ島) ニ廣ク傳播シ野生ノ狀ヲナス果實ハ多肉質ニシテ俗ニ *Indian Fig* (印度
イチジユク) ト稱シ食用ニ供セラル

一一 白檀ノ(檳柏)老樹

委員 城本藤太郎報告

一所 在 有田郡湯淺町大字別所百六十五番地勝樂寺(現今無住)境内

一 現狀並ニ由緒 廢寺ノ境内ニ唯一本ノ老樹トシテ殘サル根ノ周圍一丈八尺樹幹ハ二本ニ分カル昔南龍院當地ニ來リ給ヒ此ノ樹ノ徒ニ伐採セラレンコトヲ惜ミ當時ノ碩儒李梅溪ヲシテ「御留白檀樹」ナル揮毫ヲナサシメ石ニ刻シテ標識トナス當時既ニ其ノ老樹タリシヲ想フベシ

一 保存ノ要件 斯ル老樹ハ保存ノ必要ナルコト勿論ニシテ現ニ廢寺ノ境内ニアレハ何時伐採ノ悲運ニ遇フヤモ計ラレズ宜ク速ニ保存ノ假指定ヲ要スルモノトス

一二 膽八樹ノ老木

委員 城本藤太郎報告

一 所在地 有田郡湯淺町大字湯淺七百八十四番地深專寺墓地

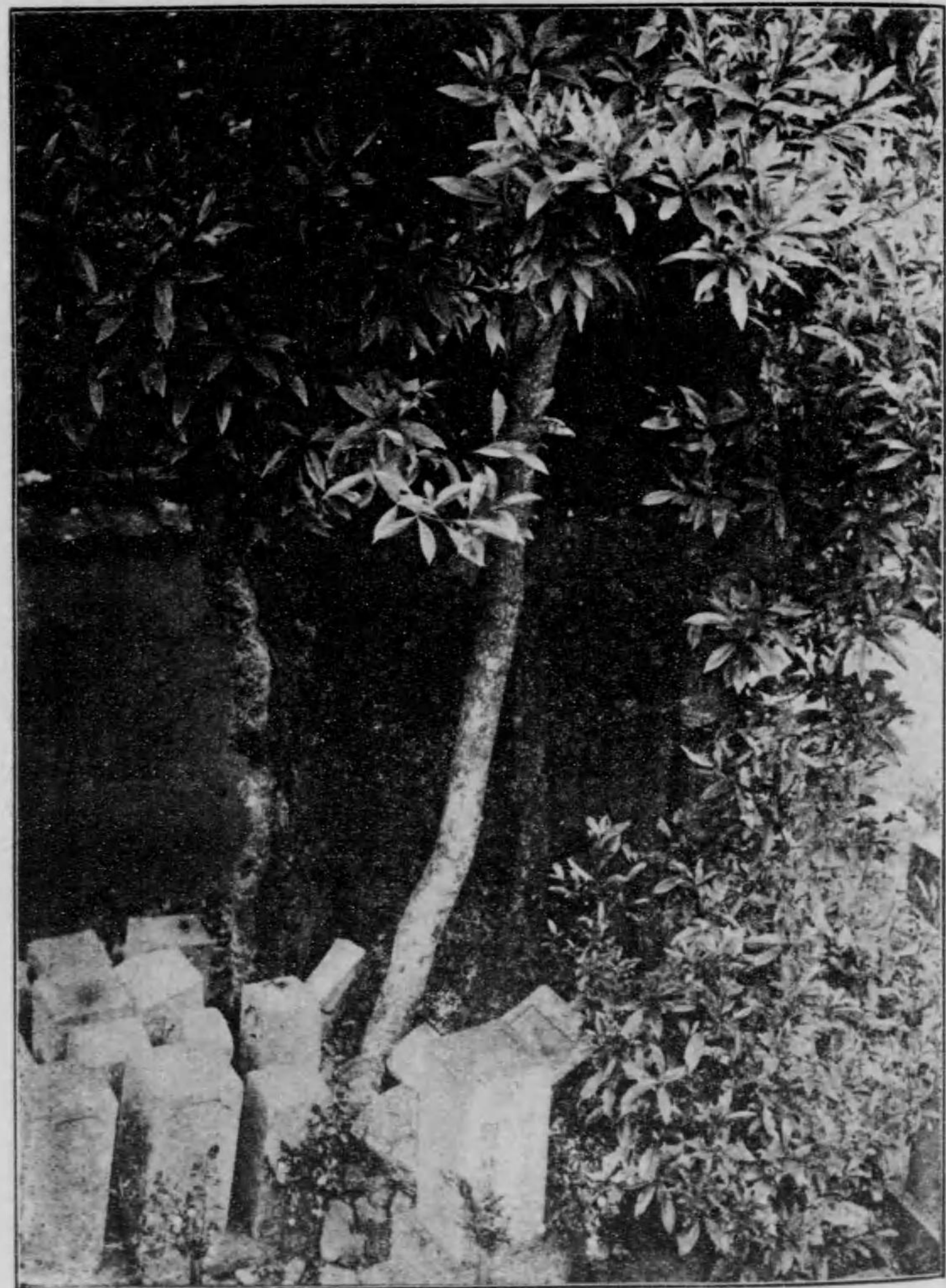
一 現狀 周圍約二丈、樹幹ノ大部分ハ既ニ腐朽シ僅ニ周圍ノ半ヲ存ス腐朽セル内部ニ下レル不定根二本アリソノ長サ一間半周圍二尺ニ達ス蓋シ此ノ根ヲ下シテヨリ既ニ數百星霜ヲ經タルナルベシ樹齡千余年ノモノト想ハル

一 保存ノ要件 現狀ノ儘ニテ可ナラン

一三 化石(シダリス、羊齒、蘇鐵、アンモンナイト)



樹老ノ檀白



木老ノ樹八膽



委員 城本藤太郎報告

有田郡湯淺町附近ハ地質白堊紀ニ屬シソノ下部ヨリ上部ニ至ル地層ノ各一部分處々ニ露出シテ夫々特有ノ化石ヲ見ル蓋シ地質學研究ノ一要地タリ下部ヲ「ネオコミアン」トシ羊齒、蘇鐵ヲ出ス中部ハ「セノマニアン」「チウロニアン」トシ「シダリス」三角介ヲ産ス上部ハ「セノニアン」ニシテ「アンモンナイト」ノ化石ヲ見ル今ソノ產地等ヲ舉グレバ

蘇鐵、羊齒

一所在地 有田郡廣村大字和田字天皇谷二十七番地

一地目 山林ニ屬セル地先

一所有者 有田郡廣村大字廣 浦清一郎

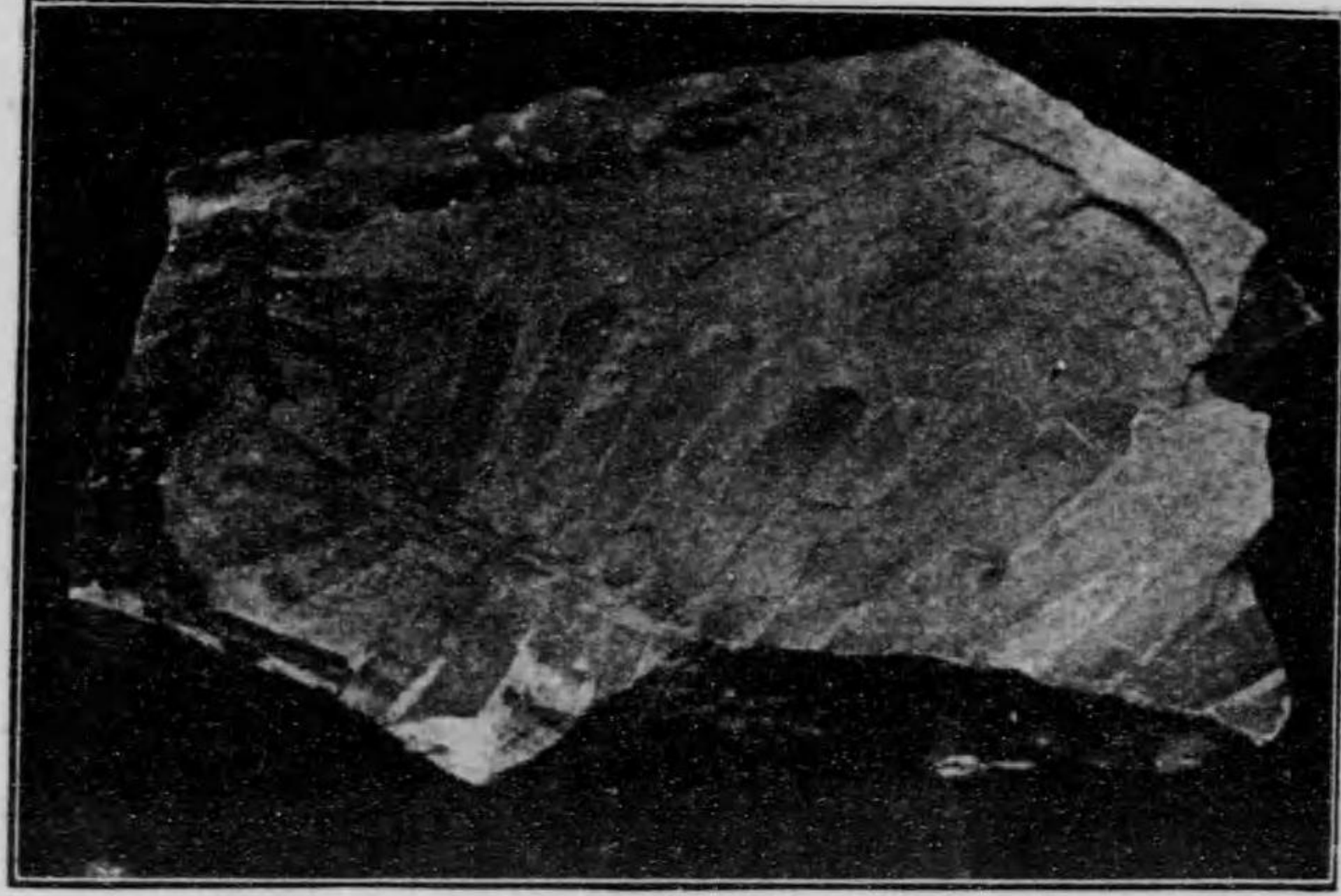
シダリス (海膽類)

一所在地 有田郡南廣村大字河ノ瀬字下鹿ヶ瀬三百三十六番地

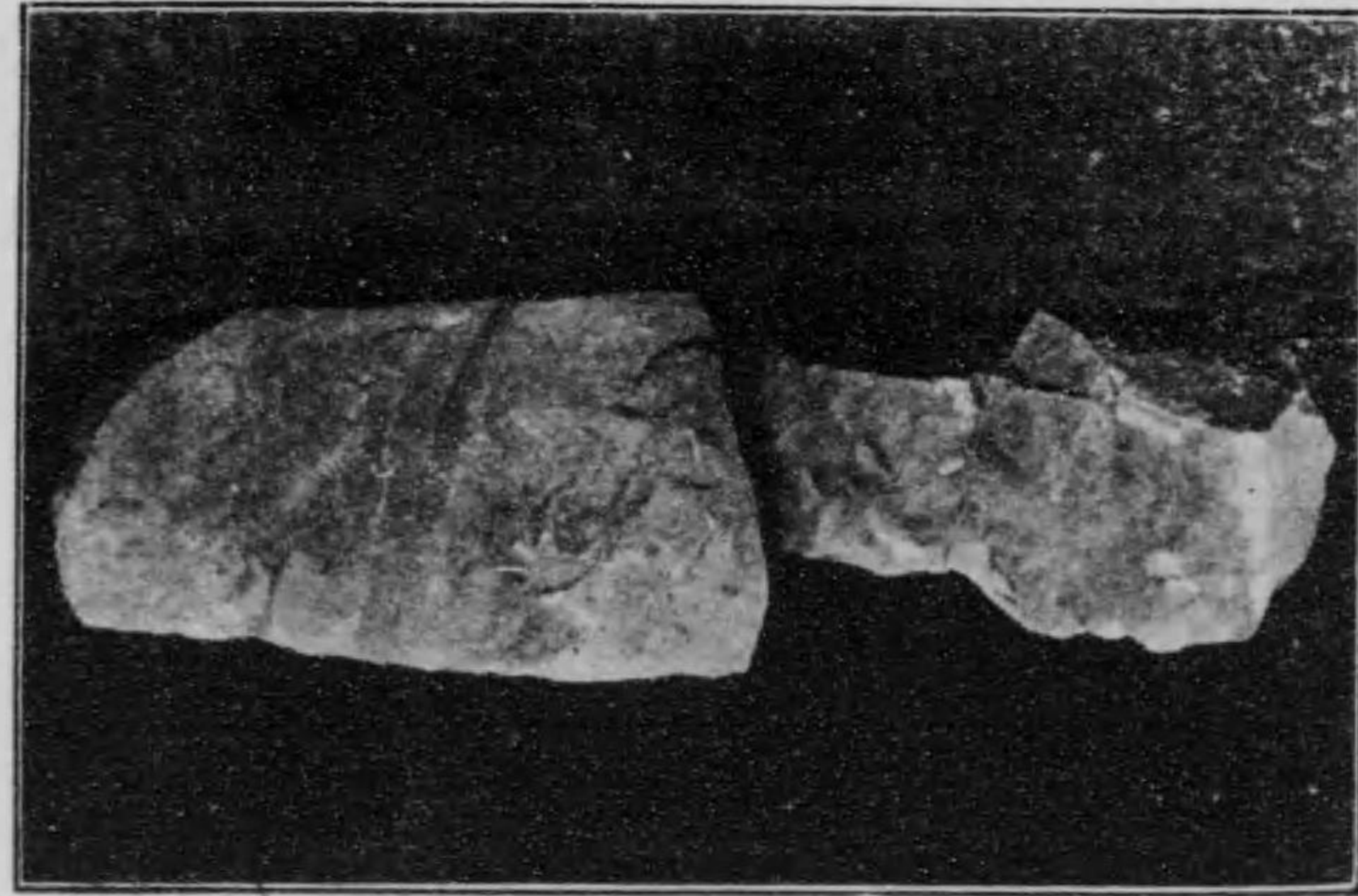
一地目 山林

一所有者 東京市日本橋區小網町三丁目 東濱殖林株式會社

三角介



(鐵蘇) 石化



(齒羊) 石化

- 一所在地 有田郡南廣村大字山本字中七百八十二番ノ二
- 一地目 山林
- 一所有者 有田郡南廣村大字山本 森口忠右衛門
- アンモンナイト
- 一所在地 有田郡鳥屋城村大字中井原字城山八七六番
- 有田郡鳥屋城村大字中井原字菖蒲谷四三〇番
- 有田郡鳥屋城村大字中井原字年後七一一番
- 有田郡鳥屋城村大字小川字高瀬四八六番ノ一
- 一地目 山林
- 一所有者 有田郡鳥屋城村
- 二枚 貝 卷 貝 (アンモンナイトノ更ニ上部ニ屬スルモノ)
- 一所在地 有田郡南廣村大字西廣字北谷七八二番ノ二
- 一地目 山林 (保安林)
- 一所有者 有田郡南廣村



(トイナンモンア) 石化

以上化石ノ現状 産出何レモ稀少トナレリ土砂崩壊、石材採掘等ノ際良好ナルモノヲ出スコトアリ

保存ニ對スル意見 斯ル化石ヲ地中ニ保存スルコトハ何ノ用ヲモナサズ成ルベク多ク採掘ヲ望ムト雖モ學術上有用ナル化石ノ徒ニ散乱シ破壊サレンコトハ慨歎ニ堪ヘズ宜シク採取者ハ當路ノ調査委員ニ提出シテ價值アルモノヲ保存シ學術研究ニ資スルヤウ適當ノ處置ヲ採ラレンコトヲ望ム

一四 桶ノ自生

委員 芝口常楠報告

一所在地

甲 日高郡白崎村大字大引字皆森七八四番地

乙 日高郡白崎村大字大引字皆森七八六番地

一地 目山林

一地 積

甲 參段七畝二十四步

乙 壹町壹段七畝十六歩

一所有者

- 甲 海草郡大崎村 山中又七郎
- 神戸市 澤田清兵衛
- 乙 海草郡大崎村 山中榮太郎

但現在生育ノ樹木ニツイテハ賣渡契約ニヨリ兩地トモ前土地所有者タル日高郡白崎村大字大引阪口源右衛門ノ所有トス

一大小數量等

石灰岩ノ突元タル所南面セル部分ニ雜木ト共ニ混生ス時々伐採ニアヒタルモノ、如シ其ノ中根元ノ大ナルモノ一株根廻リ二尺ニ及ブソノ他根廻リ四五寸ヨリ一尺ニ及ブモノ八株アリ合計九株ニシテ即チ甲地ニ八株乙地ニ一株トス

一現狀

從來本村一帶ニ橋ノ自生多ク而カモ大樹ニ乏シカラザリシコトハ古老ノ言ヲ俟ツマデモナク現在村民ノ齊シク周知シ敢テ珍シトセサルニ徴シテ明ナリ即チ大字大引西ノ宮（現在合祀趾地）

ノ社叢ガ橋ノ大樹ヲ以テ充タサレタリシモ今ヨリ四十年前以前伐採セラレシコト大字神谷（同地田甫佐太郎持山）ニハ周圍四五尺ニ及ブモノアリシガ十五年前他ノ雜木ト共ニ伐採セラレシコト現ニ石灰岩ヲ採取シツツアル黒山（山名）ニアリシモノモ岩石ト共ニ倒サレシコトニヨリテ知ルヲ得ベシ唯皆森ニアルモノノミハ山中岩石ノ中ニ生育セルノ故ヲ以テ今日マデ残りタルモノ、如シ

然レドモ近時附近ノ石灰岩ヲ採掘中ニテ衆人ノ出入ト共ニ或ハ庭木トシテ掘取ラレ又ハ一時ノ慰ミトシテ無益ニ濫伐セラレ毫モ其ノ後ヲ顧ミザル状態ニアリ近ク同村ニ淺野セメント工場ヲ建築スル由ナレバ石灰岩ノ採取ト共ニ將ニ絶滅ノ期ニ迫マルモノ、如シ

一從來ノ状態

普通ノ雜木ト同シク取扱ハレ果實ノ美シキ故ニ無益ニ枝ヲ伐ラレ或ハ他人ノ見付クル所トナリテハ庭木トシテ掘取ラル、コトモアリ全ク放任ノ状態ニアリ

一保存ノ要件

本縣ニ於ケル唯一ノ橋ノ自生地ニシテ石灰岩採取ノ禁止又ハ制限ヲナサレハ保存ノ道ナシ而シテ橋ノ生長ヲ害スル纏繞植物ノ刈除ヲ要ス

附記

同地ニハ又批把ノ自生モ多ク共ニ保護スベシ岩上あかう亦多ク一種ノ植物景觀ヲナス

野生ノ橘ニハ刺ヲ有スなつみかんノ實生ニ刺ヲ有スルト同シ理カ『江南ノ橘化シテ枳トナル』ノ言モ敢テ附會ノ説ニアラサルヲ思ハシム

一五 姥目ノ老樹

委員 芝口常楠報告

一所在地 日高郡和田村字宮脇一七八八番地ノ内一號日御崎神社境内

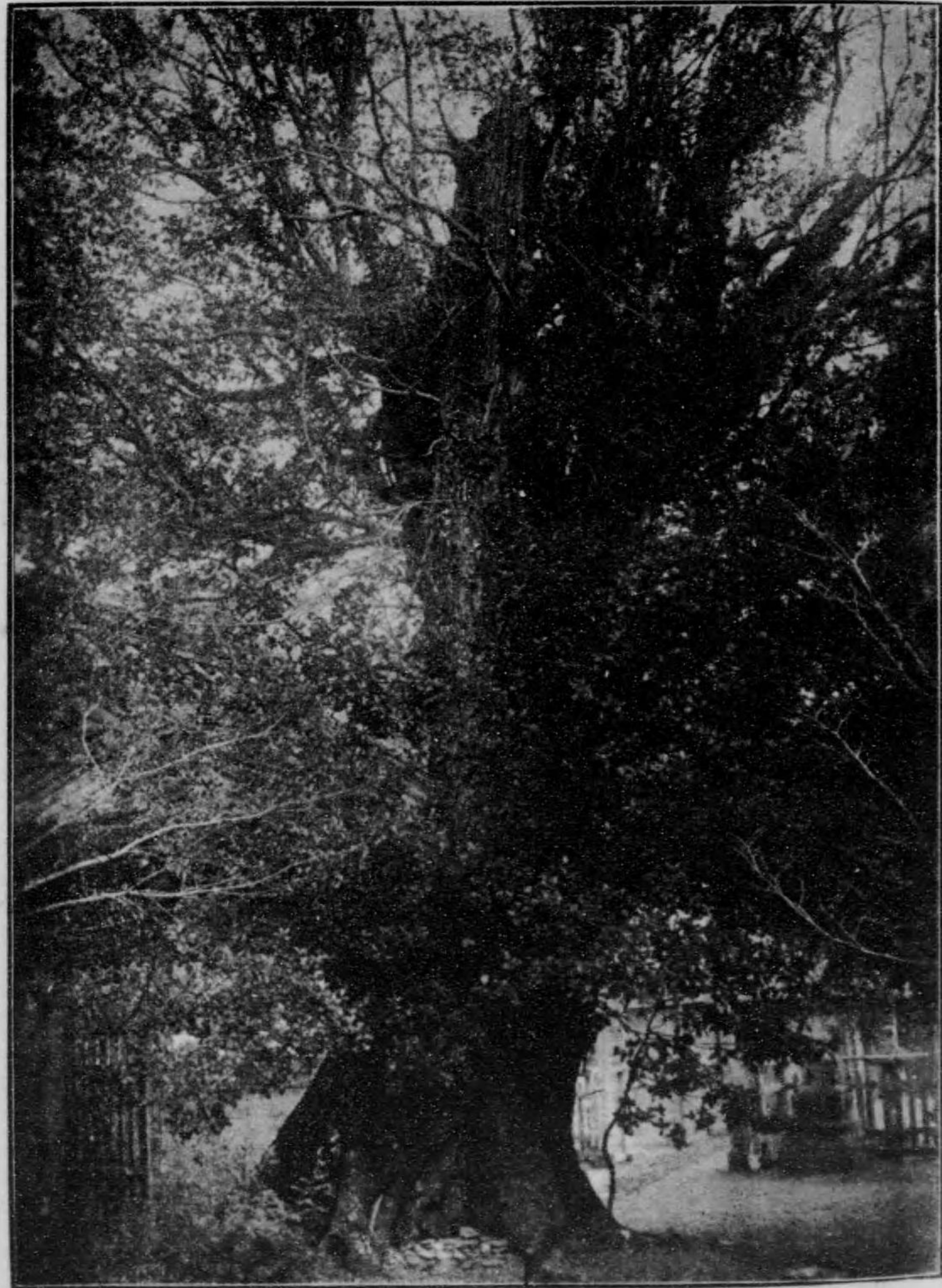
一地目 社地

一地積 五千八百二十三坪

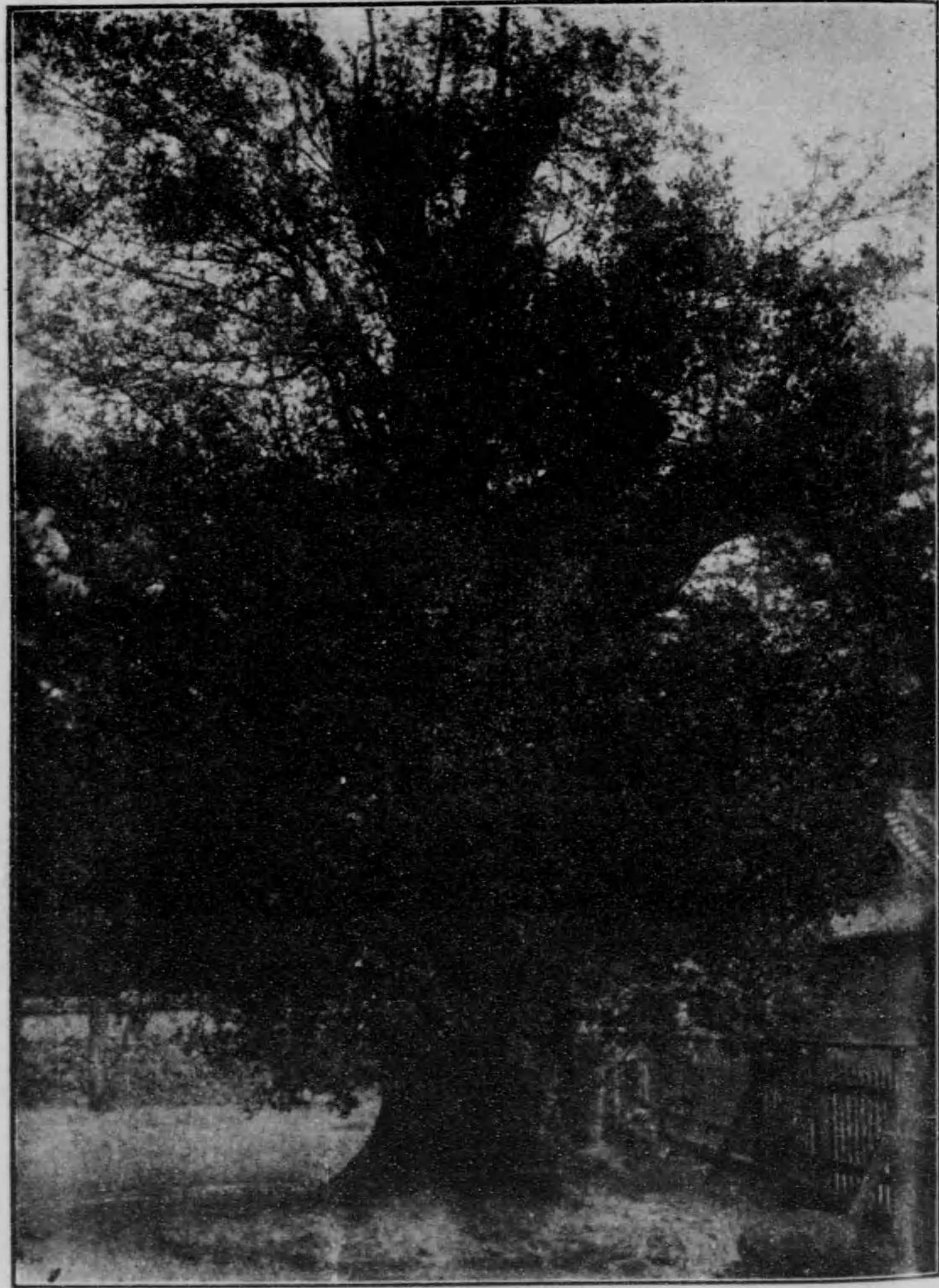
但右老樹ノ保護地域トシテ貳株共ニ各樹木ヲ中心トシ三間四方即チ九坪宛ニテ可ナラン

一所有者 土地所有者 國有

樹木所有者 日御崎神社



(株甲) 樹老ノ目姥



(株乙) 樹老ノ目姥



一管理 者 ナシ

一大小數量等 貳株アリ

甲株 根廻リ二十一尺七寸 地上五尺ニテ周圍十四尺三寸 地上七尺ニテ周圍十四尺六寸 高

サ五間

乙株 根廻リ十五尺 地上五尺ニテ周圍十尺 高サ七間

樹齡 清和天皇貞觀元年和田村宮ノ脇ヨリ今ノ地ニ遷座セルトキ庭樹トシ植栽セルモノニシテ

樹齡一千六十餘年ト稱セラル

猶コノ傳説中ノ樹木トシテ右ニ株ノ外ニ一株アレドモ目通り周圍五尺七寸ニシテ前記ノ二株

ニ比スレハ遙ニ小ナリ

一現 狀 甲株ノ如キハ上部既ニ腐朽シ樹勢稍衰ヘタルノ觀アリ

乙株ハ甲株ニ比スレハ樹齡稍若キガ如ク樹勢猶ホ盛ナルヲ認ム共ニ神木トシテ村民ノ尊崇スル

所ナリ

一從來ノ狀態 神木トシテ何等手ヲ加フルコトナク今日ニ及ビタルガ如シ

一傳 說 等 社傳ニ依レハ本社元ト和田村宮ノ脇ニ鎮座アリシニ清和天皇ノ貞觀元年今ノ地

ニ遷座セラレ此ノ時庭木トシテ姥目數百株ヲ植栽シタリト云フ
三代寶錄ニ

貞觀十七年十月十日巳未授ニ紀伊國正六位上三前神社從五位下
紀伊名所圖繪ニ

境内姥目ノ樹林ニテツノ大ナルハ三抱ニモ餘レリ

大正八年十月發行教育書報第九卷第二號所載東京植物病院技師山根重成氏ノ『和歌山縣ニ於ケル名木ノ故事ト傳説』ト題スル稿中ニ

樹高ハ四丈ニ達シ一千六十年ノ齡ヲ經テ居ル清和天皇ノ貞觀元年ニ植エツケタモノデ土地ノ人々ノ尊敬ヲ受ケテキル云々

トアリ ナホ和歌山縣日高郡誌ニモ

最大ナルハ周一丈五尺稀世ノ古木也

一保存ノ要件 腐朽ノ部分ヲ手入スレハ現在ノマ、ニテ可ナラン

一六 びやくしんノ自生地

委員 芝口常楠報告

一所在地 日高郡比井崎村大字津久ノ浦字南二二九番地々先地方『小かぶと』ト稱スル處

一地目 磯トシテ官有地トナリ地目ナシ 但宛然小山ヲナシテ山林ノ如シ

一地積 不詳

一所有者 官有地

一大小數量等 數株アリ大ナルモノハ根元周圍約二尺モアルベシ但シ海岸ノ懸崖上ニアル故詳

ニ測ルコトヲ得ズ

一現狀 うばめがし及まつ等ト混生セルモびやくしんハ海ニ面セル懸崖上ニ多シ

一保存ノ要件 磯トシテノ官有地ナルモ山林トシテ保護ヲ要スベシ附近かぶとト稱シ風景ヨク

紀伊名所圖繪ニモ記載セラレタル處ナリ

一七 やつしろらん

委員 中島濤三報告

一所有地 西牟婁郡岩田村字岡 八上神社境内

一 地 積 約五十坪

一 形 態 蘭科ニ屬シ高サ六七寸無葉ニシテ未ダ花ヲ見ズ六月頃直徑二分長サ六七分ノ莖ヲ結ブ寄生植物ナルモ其ノ宿主ハ不明ナリ

一 現 狀 該草ハ明治四十一年ノ頃熊本縣八代郡種山村ニテ發見セラレ八上神社境内ハ

第二ノ產地ニシテ他ニソノ產地アルヲ聞カズシカモンノ數少ク如何ニ精探スルモ五十株ヲ出テサルベシ

ナホ同境内ニハしろしやくじやう、ほんごうさう、むえふらん等ノ珍種アリ

一 保存ノ要件 現狀ノ儘ニナシ置クベシ

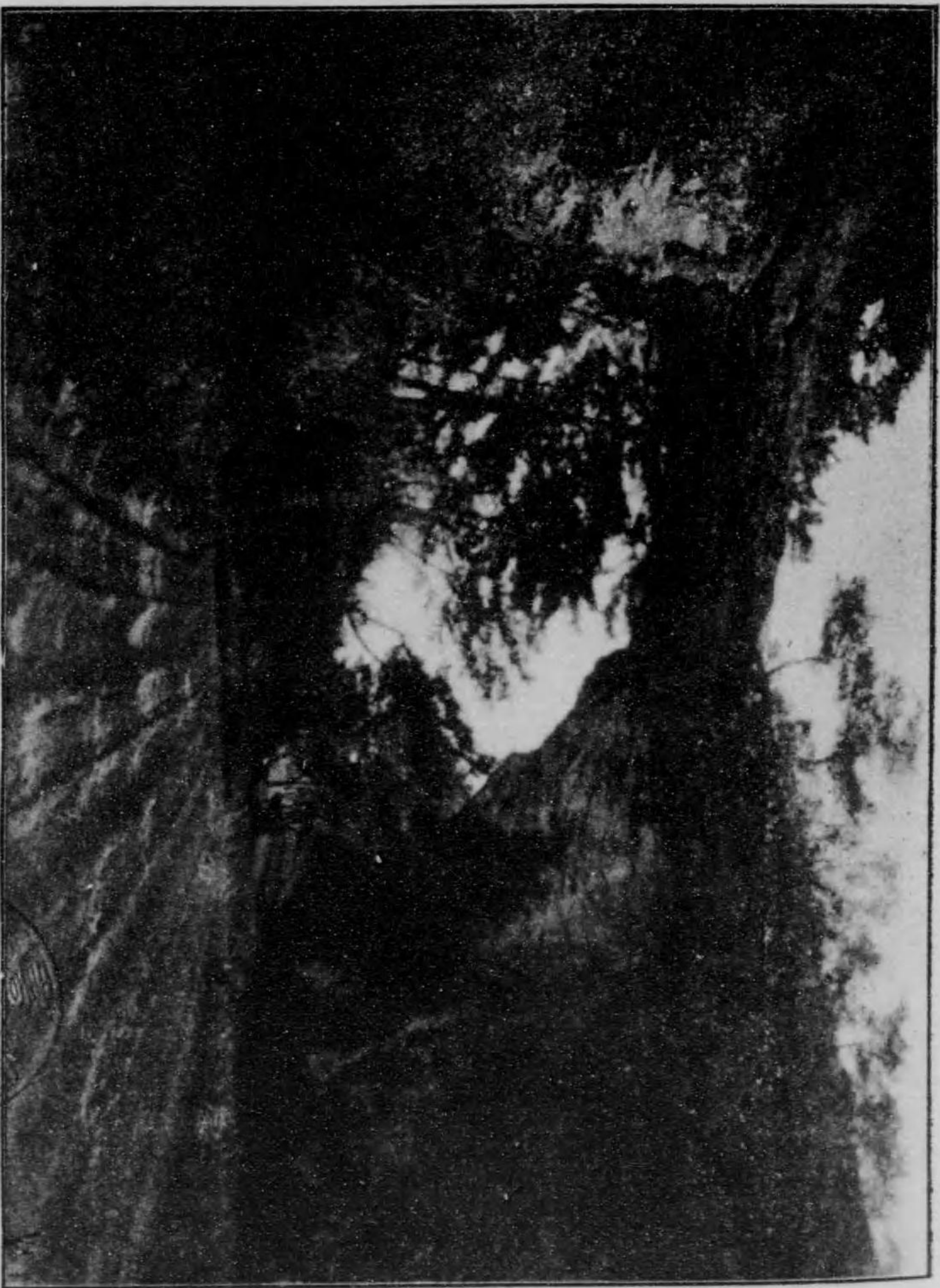
一八 蟻通神社ノ樟樹

委 員 中 島 壽 三 報 告

一 所 在 地 西牟婁郡湊村 蟻通神社境内

一 現 狀 太サ二丈六尺、高サ六丈、ヨク繁茂シテ衰弱ノ態ナシ

一 傳 説 安政大火ノ時盛ニ噴水シテ猛火ヲ鎮メシトテ鎮火ノ靈木ト稱ヘ衆庶ノ尊崇甚タ



岩 橋 鬼

高シ

一九 鬼 橋 岩

委員 中島 濤 三 報告

一 所在地 西牟婁郡湊村 村社神樂神社境内

一 岩 質 砂 岩

一 形 態 橋梁状ヲナシ高サ四丈幅一丈五尺長サ五丈稍々奇觀ヲ呈ス

二〇 はかまかづらの北限自生地

委員 宇井 縫 藏 報告

一 所在地 西牟婁郡新庄村字北島ノ巢三千九百七十二番地田邊灣内ノ神島カシマ

一 地 目 山 林

一 地 積 三町六畝二十一歩

一 所有者 西牟婁郡新庄村

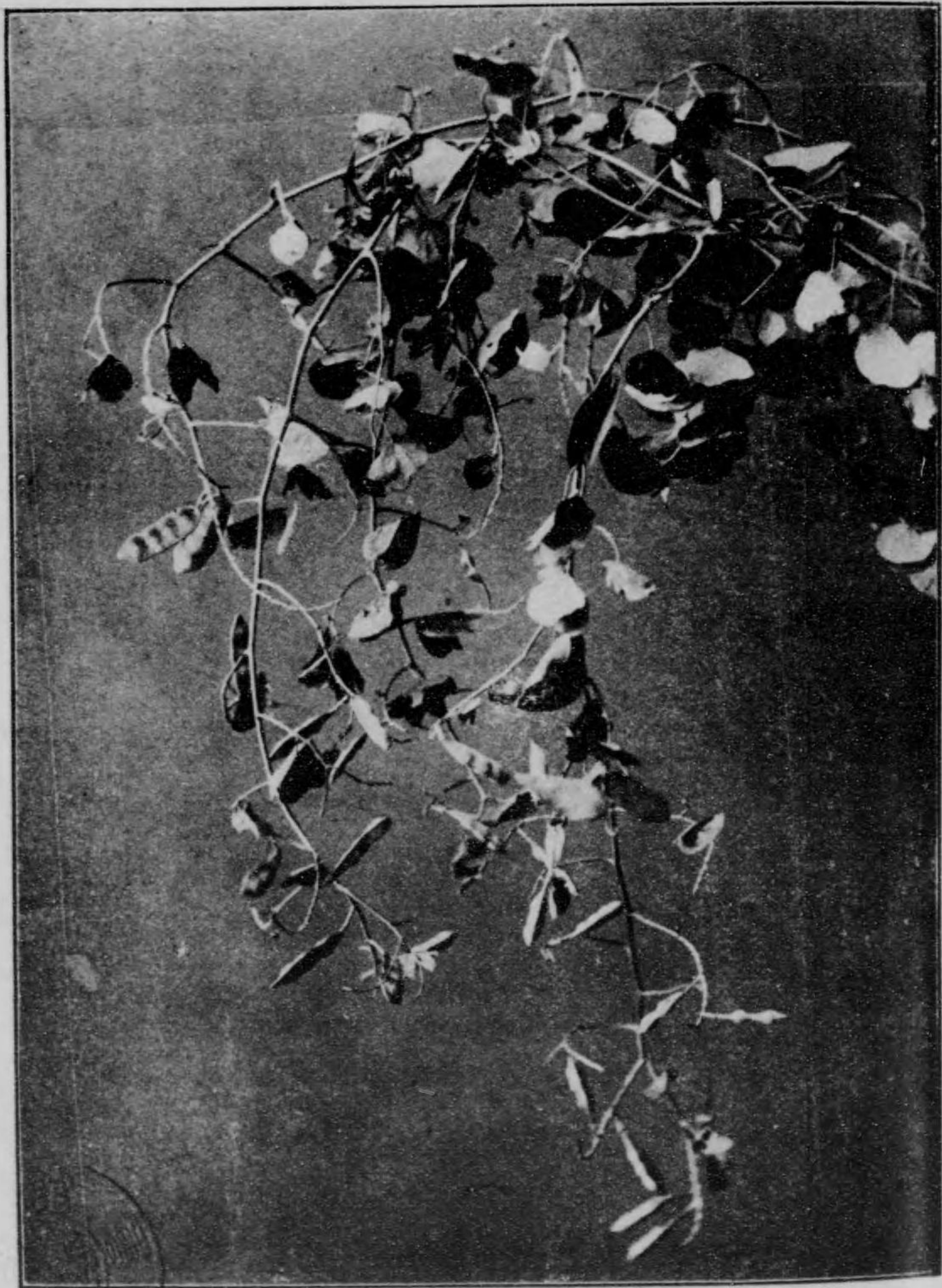
一管理 者 西牟婁郡新庄村長

四四

一現狀及由來 神島ハ田邊灣内ニアル周圍約九町許ノ小島ニシテ老樹鬱蒼全島ヲ被ヘリ往時島頂ニ一祠アリテ神島神社ト稱セシガ明治四十二年七月村社大瀉神社ニ合祀セラルコノ島ハ風致ノスグレタルトはかまかつらノ自生トヲ以テ早クヨリ世ニ知ラレタリ

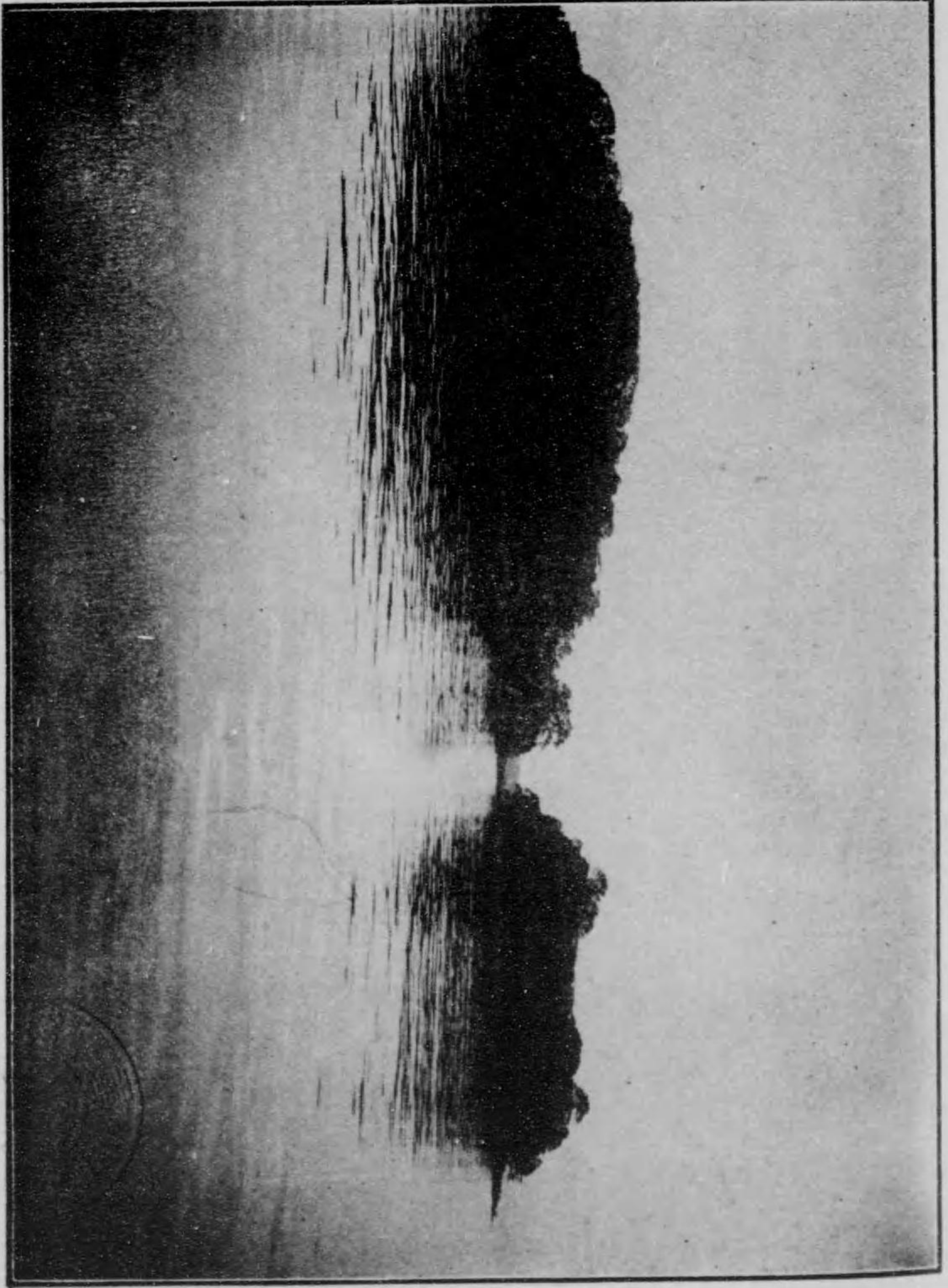
はかまかつらハ荳科ニ屬スル蔓性植物ニシテ學名ヲ *Paullinia Jalouica Maxim.* トイヒ俗ニわんじゆト稱ス蓋シはかまかつら(袴蔓)トハ葉形ヨリ出テタル名ニシテわんじゆ(罌珠)トハ種子ヨリ來レル名ナルベシ元來暖地固有ノ植物ニシテ我邦ニテハ九州中部以南四國ノ南端ニ自生シ琉球諸島ニモ亦多キガ如シ和歌山縣ニテハ田邊灣内ノ神島、江住村江須崎神社境内、和深村双子島ニ自生スルガ神島ハ實ニ本種ノ最北ノ自生地トシテ分布學上注目ニ値スルナリ

神島ニ産スルモノハ幹ノ最モ太キモノ周圍一尺内外アリ蜿蜒トシテ長蛇ノ如ク鬱蒼タル樹間ヲ縫フテ繁茂セリ葉ハ矢筈形ニシテ互生シ五月頃淡黃色ノ花ヲ開キ花後二三寸ノ莢ヲ結ビ中ニ二三ノ黒子アリ古來念珠トシテ佛徒ノ珍重措カサル所ナリ往時ハ頗ル繁茂セシガ一時盆栽用ナドトシテ濫採スルモノアリ大ニ減少セシガソノ後該地ヲ保安林ニ編入シテ入山ヲ禁ズルナド管理者ニ於テコレガ保護ニ努メタルヲ以テ近時著シク繁茂セルヲ見ルハ誠ニ喜ブベキコトナリト



はかまかつら

景遠ノ島神





馬目ノ大木

ス

一 保存ノ要件 本島ハはかまかづらノ北限自生地タルノミニテモ保護ノ價值ハ十分ナルガソノ
他ばくちのき、ほるとのき、くすどいげ、さしうすげ、たきさび、はまねもと等ノ自生多キノ
ミナラズ加フルニ貝化石、木の葉石等少カラザルヲ以テ速ニ全島ヲ天然記念物所在地ニ指定シ
テ完全ニ保存ノ途ヲ講シタキモノナリ

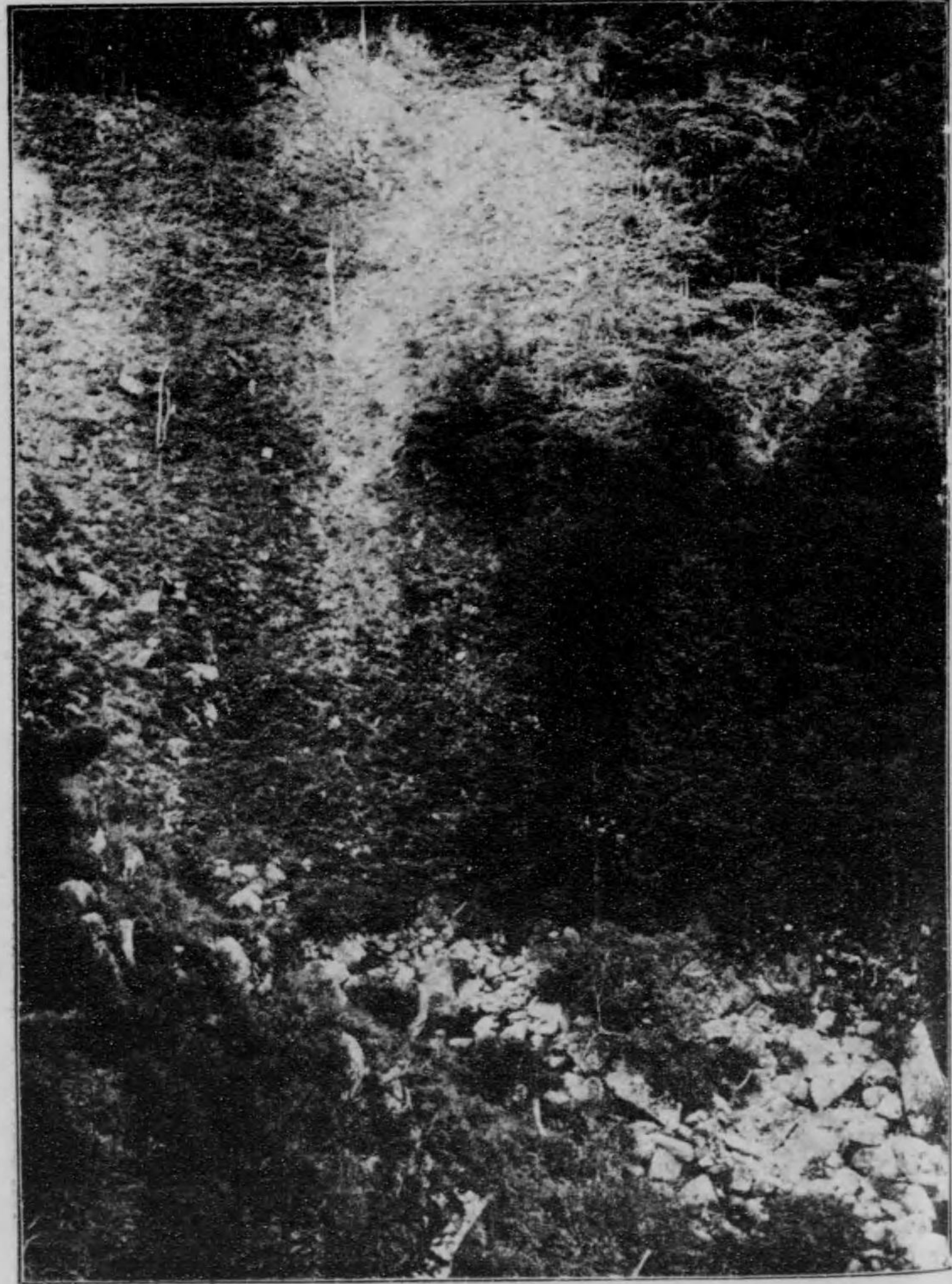
二 馬目ノ大木

委員 中島 濤 三報告

一 所在地 西牟婁郡上秋津川村 追戸龍神社境内
一 所有者 西牟婁郡上秋津村
一 現 状 大木數本アリソノ中最大ナルモノ下部周リ一丈四尺高サ五六丈、枝ハ四方十三
間ニ擴ガル

三 りうびんたい

委員 太田馬太郎報告



(景全地生野) いたんびうり

一所在地

甲 東牟婁郡那智村大字市野々字小谷八百五十五番
乙 東牟婁郡那智村大字市野々字向山七百十八番ノ一

一地目

甲 山林
乙 風致保安林

一地積

甲 十三町三段二畝二十歩ノ内 七畝歩
乙 十三町七段九畝二十九歩ノ内 一段歩

一所有者

甲 東牟婁郡那智村大字井關九百八十四番地 三隅萬藏
乙 東牟婁郡那智村大字市野々 官幣中社那智神社

一管理 者

甲 本項ニ該當スル者ナシ

650725 (其)





(二其) WZANDS 9



乙 官幣中社那智神社宮司島野盛服

一 形狀、數量

甲 葉柄三尺五寸位 莖株直徑八寸位ノモノ以下十數株点々野生ス

乙 葉柄四尺位 莖株直徑八寸位以下ノモノ二十余株点々野生ス

一 現 狀

甲 發生地ノ杉樹ハ伐採セラレ僅ニ數株ヲ留ムルノミナレバ土壤乾燥シテ發育ヲ害シ早晚枯死セントスルモノアリ

乙 發生地ハ風致保安林ナル杉林中ニテ雜草ノ間ニ点々野生セリ

一 從來ノ狀態

甲 杉林手入ノ際雜草ト共ニ剪除セラレ或ハ濫採セララル、ニ任セリ

乙 杉林手入ノ際雜草ト共ニ剪除セラレ或ハ濫採セラレテ其ノ數減シタリ

一 保存ノ要件

甲 ソノ筋ノ調査ヲ俟テ保存設備ヲ要ス

乙 道路ニ接近セルヲ以テ濫採サレ易ケレバ至急其ノ筋ノ調査ヲ求メ保存設備ヲ要ス

二三 をがたまのき

四八

委員 小野芳彦報告

一所在地 東牟婁郡新宮町 官幣大社熊野速玉神社内苑

一地目 官有社地

一地積 約五坪許

一所有者 官有

一所有者以外管理者 ナシ

一現 状 速玉神社總門内東側ニアリ亭々トシテ立ツ幹ノ周根廻リ五尺六寸胸高五尺三寸

高約六間半許

をがたまのき 廣心樹、黃心樹、木蘭科、常綠喬木

葉ハ長楕圓形ニシテ葉質厚ク長キ葉柄ヲ有ス花ハ微黃色ヲ帶ビタル白花ニシテもくれん類ノ花

ニ酷似スレドモ極メテ小形(大豆位ノ大サ)ナリ果實ハ圓形ニシテ五個七個位ヅツ簇生シ十一

月ノ未頃固ク厚キ殼ニツニ裂ケ内ニ二個或ハ一個赤珊瑚色ナル球形又ハ半球形(二三個ヲ具フ

ルモノ)ノ堅ク愛ラシキ種子ヲ具フ

をがたまのきハ古今集秘傳三木ノ隨一ニシテ速玉神社内苑ニアルモノハをがたまのきノ中ニテ
モ殊ニ珍種ナリトイフ

古今集 物名 をがたまのき

みよしのゝ吉野のたきに浮かび出づる

あわをがたまのきゆと見つらん

一、由來傳説等 詳ナラズ

二四 竹^ナ 柏^キ

委員 小野芳彦報告

一所在地 東牟婁郡三輪崎町大字木ノ川 寶珠寺境内

一地目 寺院所有地

一地積 約一畝歩

一所有者 寶珠寺

一所有者以外ノ管理者 ナシ

四九

一現 狀 寶珠寺本堂ノ西側ニアリテ幹ノ周根廻リ約一丈胸高約九尺高サ約六丈許アリ新
宮町速玉神社境内ノ老竹柏ト共ニ最モ古ク最モ大ナルモノナルベシ
一由來傳説等 ナシ

二五 ゆのみねしだ

委員 太田馬太郎報告

一所在地 東牟婁郡四村大字湯峯字垣内三百二十七番
一地 目 山林
一地 積 二反三畝歩ノ内一畝歩ノ見込
一所有者 ————
一所有者以外ノ管理者 玉置良平外八名
一形狀、構造、大小、數量
一名かなやましだ *Histiopteris Injean* (Th) Yam ト云フ根莖ハ匍匐シ鱗毛ヲ帶ブ葉柄長サ二尺許
赭褐色ニシテ光澤アリ葉ハ深緑軟弱、複羽狀ニ分裂シ葉縁ニ線狀ノ囊推ヲ抱ク株數凡二十余、
野生ス

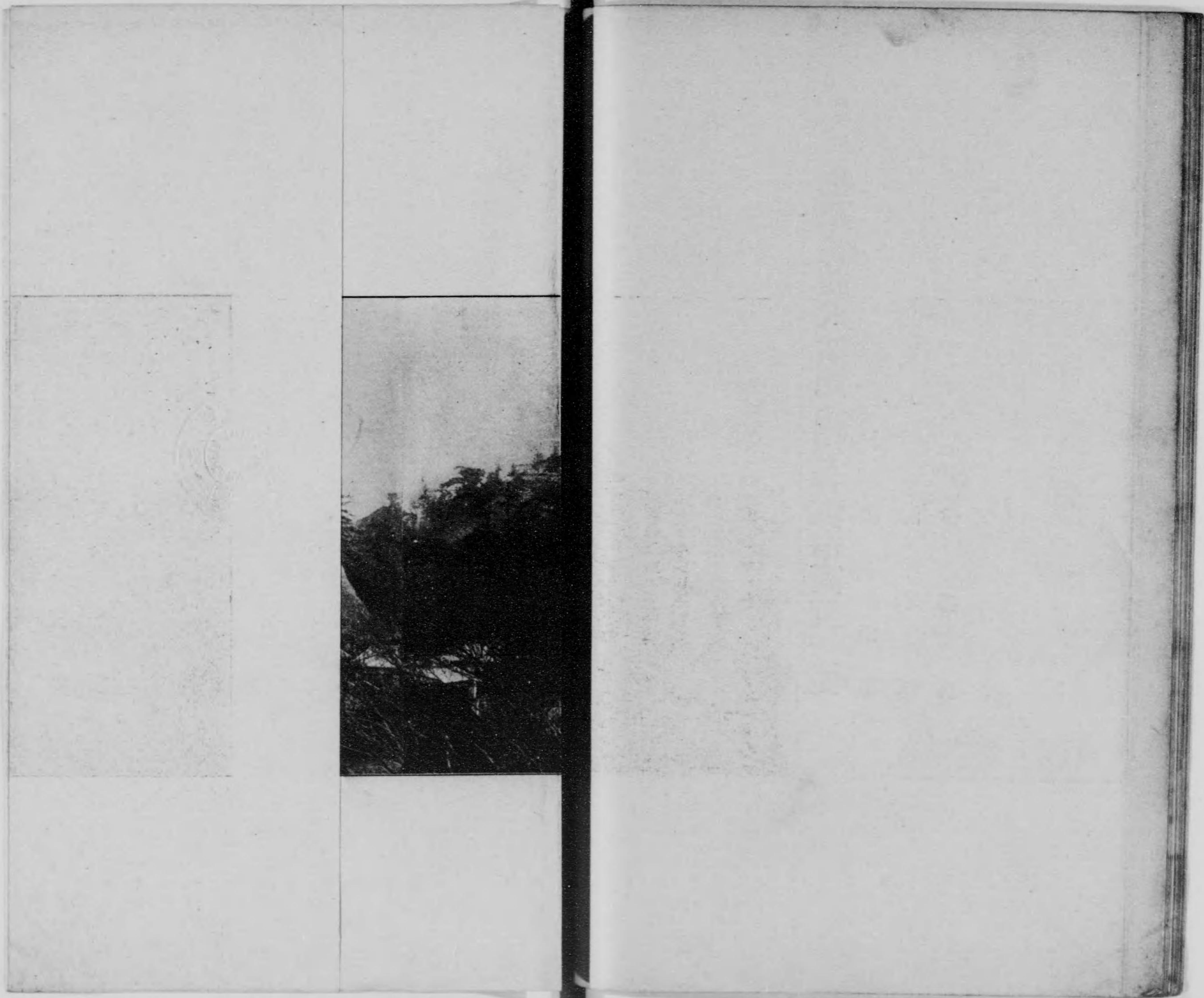
一現 狀 溪流ノ左岸陰濕ノ地ニ笹、すゝき等ト混生ス
一從來ノ狀況 川凌ヘノタメ剪除セラレ又ハ採集者ノ濫採ニ任セリ
一保存ノ要件 木柵ヲ廻ラシテ保存ノ設備ヲ要ス

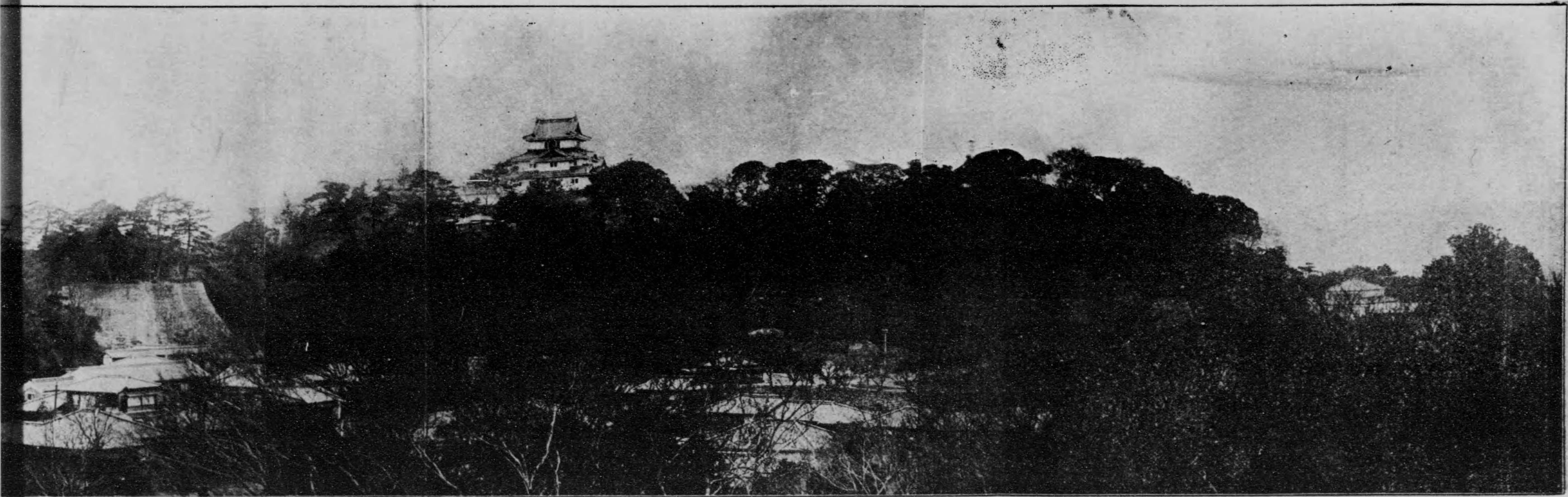
備考

ゆのみねしだハ先年三好學博士ガ熊野旅行ノ節湯ノ峯ニテ發見シタルモノニシテ實ニ本邦ニ
於ケル最初ノ採集ナリゆのみねしだノ名此レヨリ起ル其後臺灣北投温泉、小笠原島、九州屋
久島、日向ノ五箇瀨川沿岸、本縣東牟婁郡那智村字井關、藤田株式會社那智鑛山事務所前溝
ノ沿線ニ多ク野生セルヲ發見シタリ而カモ湯ノ峯ハ本邦ニ於ケル分布ノ北限地ニシテ且ツ發
見地ナレバ保存スヘキ價值アルモノトスナホ湯ノ峯民家ノ宅地内石垣ニモ野生セルモノアリ
ト雖モ此レハ保存ノ要ナカルベシ

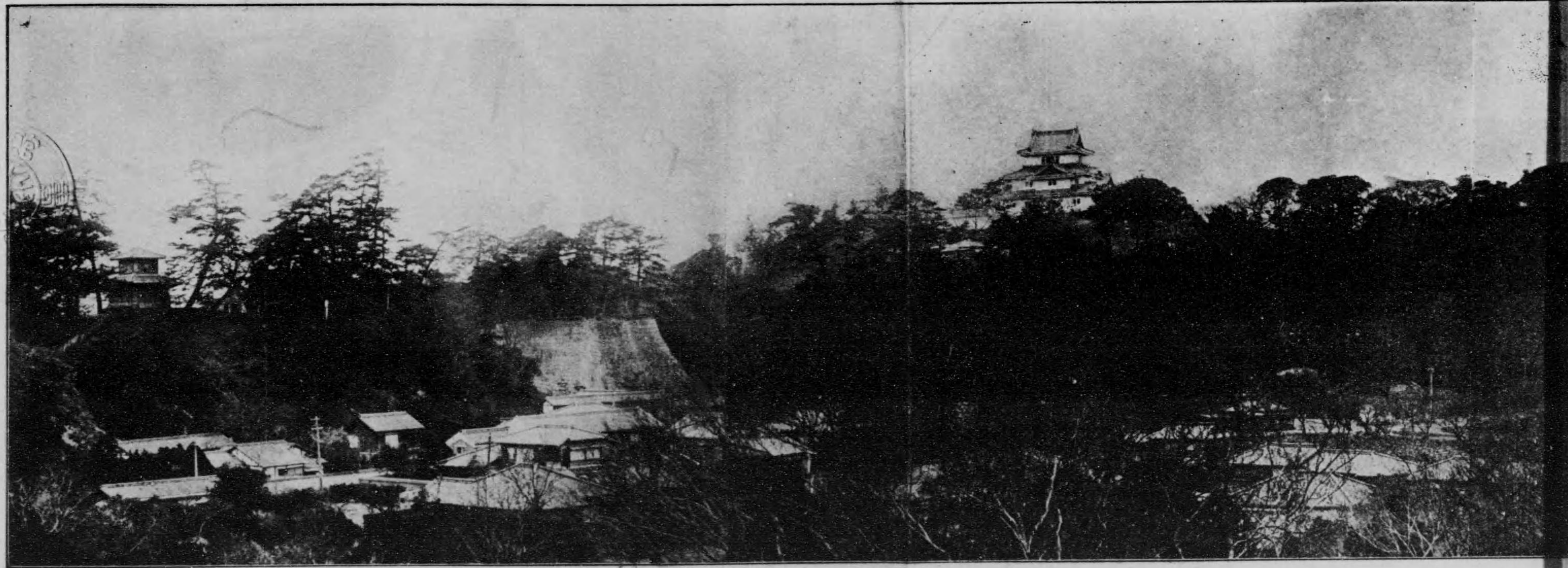
史蹟名勝天然記念物各郡市調査一覽

和歌山市
海草郡
伊都郡

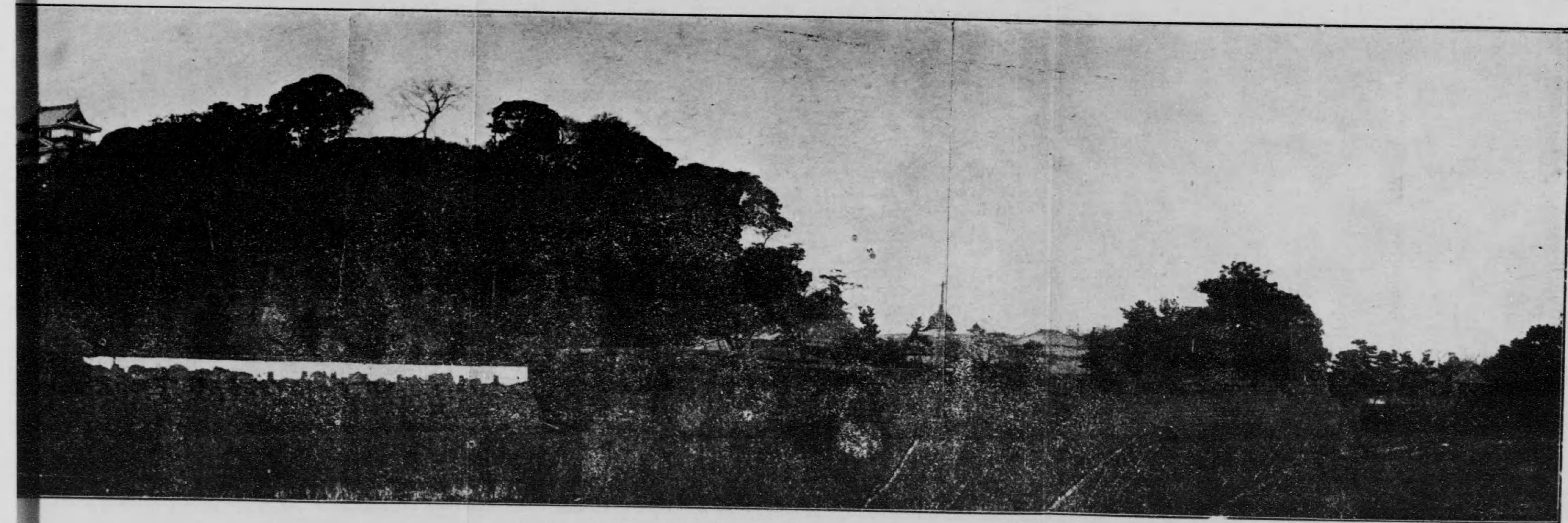




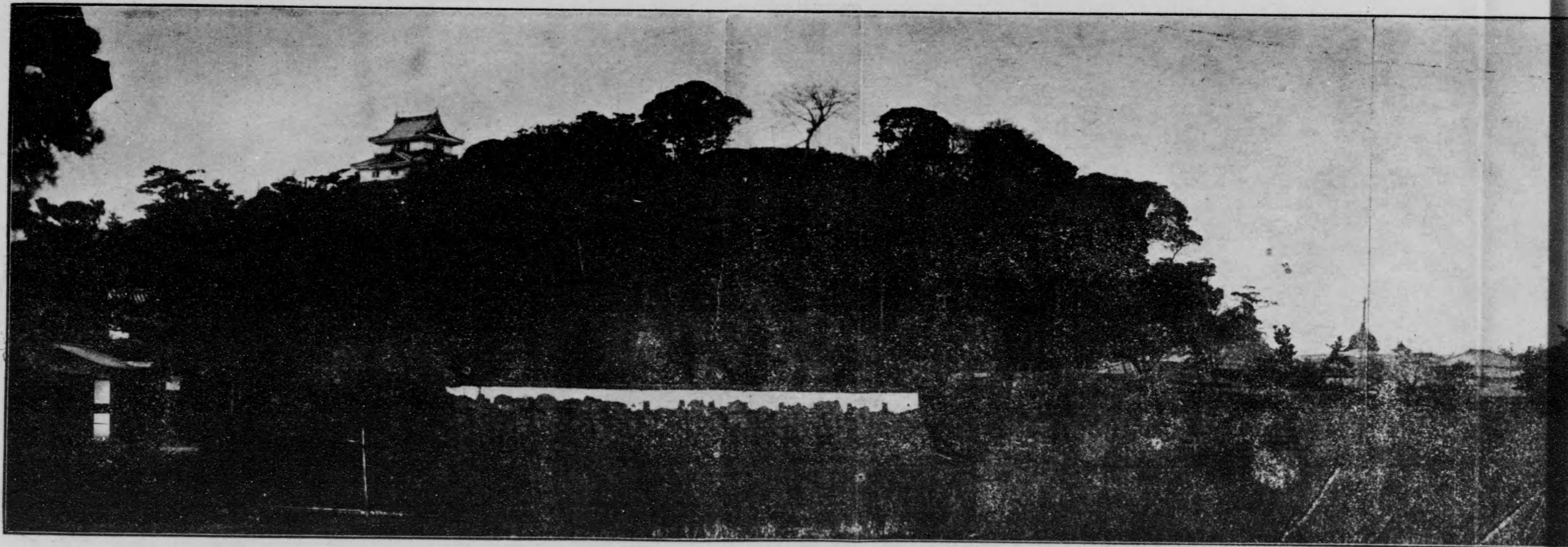
(一其) 城 山 歌 和



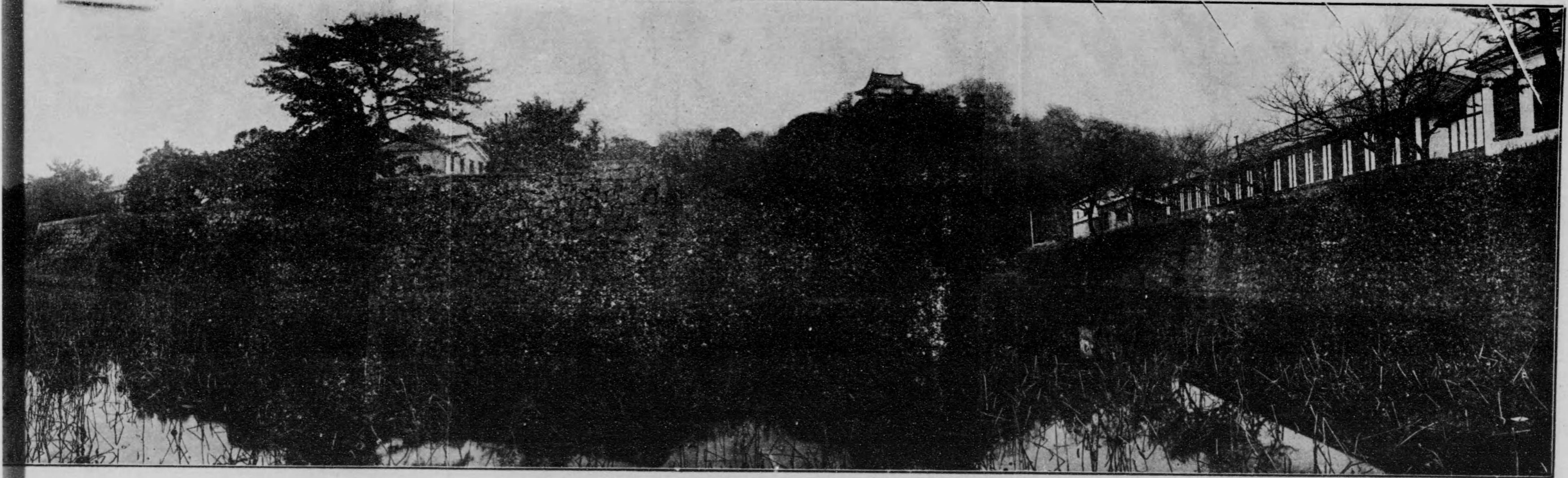
(一其) 城 山 歌 和



(二其) 城 山 歌 和



(二其) 城 山 歌 和



(三其) 城 山 歌 和



(三其) 城 山 歌 和

史蹟名勝天然記念物各郡市調査一覽

左記ハ本縣下ニ於ケル保存スベキ史蹟名勝天然記念物トシテ和歌山市並ニ海草伊都ノ兩郡ヨリ提出セラレタル調査報告書中ヨリ摘録シタルモノナリ但シ其ノ他ノ各郡ヨリ提出セラレタル調査一覽ハ載セテ和歌山縣史蹟名勝天然記念物調査會報告第二輯ニ在レハ就テ通覽セラレンコトヲ望ム

◆和歌山市

區分	名	稱	所在地	所有者	由	來	傳	說

天正十三年豊臣大關國內ヲ統一スルヤ此ノ地ヲ羽柴秀長ニ賜ヒソノ地勢築城ニ適スルヲ觀テ親シク繩張ヲ命シ三月鋤初ノ式ヲ行ヒ藤堂和泉守、羽田長門守等ヲ普請奉行トナシ本丸二ノ丸ソノ年内ニ土工ヲ竣ヘ秀長ハ大和郡山ヲ居城トシ其ノ臣桑山重晴ヲ以テ城代トナシ若山ノ城ト稱ス
其ノ後慶長五年淺野氏當城ニ入リテ増修ノ

史蹟

和歌山城

地一番丁一番

和歌山市

事アリ内堀総堀石垣等稍々成リシガ元和五年頼宣ノ此ニ封セラル、ヤ將軍「紀府城あさまなる様に被思召候間石垣等思召のまゝに御普請可被成」トテ銀二千貫目ヲ賜フ乃チ七年更ニ規模ヲ擴張シテ大ニ之ヲ闢修シタリ

然ルニ明治維新ニ至リ廢藩後ハ丸ノ内ヲ市町ニ屬セシメ本丸二ノ丸西ノ丸砂ノ丸南ノ丸ノ一部ヲ兵部省ノ所轄トナシ此レヨリ殿舎櫓樓壘壁ノ類ハ漸次毀却セラレ明治十八年ニハ二ノ丸御殿ヲ大阪ニ運搬セラル今第四師團司令部紀州御殿ノ建築コレナリ天守閣モ亦此ノ頃毀却セラレントセシガ長屋和歌山區長等ノ盡力ニヨリ僅ニ舊形ヲ存スルヲ得タリ

明治二十二年西ノ丸、砂ノ丸ノ地ヲ以テ和歌山中學校ノ敷地トナシ同三十三年縣ハ更ニ城地使用、公園設置ヲ稟請シ三十四年之ヲ

同

追廻ノ舊地

天然記念物

樟

和歌山公園

和歌山市

和歌山公園ト命名シテ開放セシガ大正二年ニ至リ和歌山市ハ遂ニ之レガ拂下ヲ受ケ市民行樂ノタメ公園的施設ノ全美ヲ期シ本多林學博士ニ委囑シテ設計ヲ乞ヒ今上陛下御即位記念事業トシテ大正四年以降五ヶ年ヲ費シ今ヤ本縣ニ於ケル一大樂園トナレリ

扇ノ芝ノ西側ニシテ北ハ南汀丁ノ近傍ニ至ルマデノ長方形ノ地ナリ舊藩時代ニハ埒ヲ築キ諸士ノ騎射練習所ナリシガ今ハ悉ク町家トナレリ

同 檜葉椿 同 同

同 鳥とまらず 同 同

史蹟 鶴ノ餌鉢 同 同

同 辨慶ノ足跡 同 同

同 昌平河岸 中橋ヨリ寄合橋ニ至ル

同 雄詰ノ松 小野町二丁目 水門吹上神社

同 男ノ芝 水門吹上神社境内

同 男之水門 湊部

和歌山公園内鶴ノ谷ニアリ幹ノ太サ四五寸ニシテ高サ三間位、何時ノ頃ニヤ暴風ノタメ中途ヨリ折レテ今ハ一間餘ソノ幹ヲ殘セリ

和歌山公園内裏坂ニアリ幹ノ太サ直径五六寸ニシテ高サ三間位、當時淺野氏ノ城主タリシ頃他鳥ノ來リテ飼養セル鶴ノ害セラレシコトヲ恐レ此ノ木ヲ植エテ鶴ヲ保護セシモノナラント

昔時城主淺野氏ノ鶴ヲ飼養セシ餌鉢ニシテ中ヲ壺形ニ彫リ裏ニ淺野家ノ定紋ヲ刻セリ今ハ數個ニ破壊セラレテ原形ヲ留メズ其ノ一片ハ現在鶴ヲ飼養セル籠ノ内ニアリ

大サ約一尺四方、來歴詳ナラズ、元西ノ丸ノ石垣ニアリシガ電車軌道取リ擴ケノ際取リ崩サレタルヲ以テ紅葉谷ニ据置キシガ今ハ所在明ナラズ

内川中橋北詰ヨリ西内川岸北ニ折レテ寄合橋ニ至ル約三町ノ間ノ地區ヲ云フ舊藩時代ニハ干店夜店建テ運リ衆人ノ雜踏梭ヲ織ルガ如クナリシト

地上五尺ノ處ニテ周圍一丈四尺五寸、高サ約十五間、樹齡約三百五十年ト云ヘド今猶亭々トシテ繁茂セリ、樹下ニ碑アリ高サ三尺六寸幅二尺三寸ニシテ李梅溪ノ選文ヲ刻ス

彦五瀬命ノ雄詰シテ薨シ給ヒシ處ナルヲ以テ此ノ稱アリ社邊阡陌ヲ開キテ雄之町ト云ヒ今ハ小野町ト改書セリ

湊部ノ古名ナリ古事記ニ曰ク「五瀬命於御手負登美毘古之痛矢串(中略)幸到紀國男之水門云々」日本書紀ニ曰ク「命武内宿禰懷皇子横出南海泊于紀伊水門」トアリ男之水門、紀伊水門皆此處ヲ云フ

同 學習館

湊紺屋町一丁目十六番地

六

舊藩御用人ノ配下ニシテ諸士ノ學問所ナリ長官ヲ督學トイヒ其ノ下ニ儒者及通官アリテ講義ヲ授ケ授讀及授讀助アリテ幼年ノ子弟ニ素讀ヲ教ヘ又學校御目付書記等ヲ置ケ

館ハ元淺野孫太夫ノ邸ナリシガ之ヲ本館トナシ講堂ヲ建テ、釋奠ヲ行ヒ又城内ニ銅瓦六角形ノ書庫等モアリシガ廢藩ノ際廢絶シテ跡地ハ現時南方常楠ノ住宅酒店造酒藏トナリ書庫所藏ノ書籍ハ徳川家ニ收容シタル以外ハ本縣師範學校ノ所藏トナル

現在ノ雄尋常小學校敷地ハ舊藩御仕入役所(後民政局)ノ跡地ニシテ玄關、門、井戸屋形ノ三建築ハ當時ノ遺物ナリ建築年代不詳ナルモ蓋シ六十余年前ノモノナラント云フ玄關一棟二十七坪余但内部二十四坪玄關出坪三坪余、門二坪余、井戸屋形一坪、イヅレモ位置ヲ變更スト雖舊營造ノマ、現存セ

同

御仕入役所ノ玄關門、井戸屋形

湊紺屋町一丁目十二番地

管理者和歌山市長

同 傳法橋

傳法橋南ノ丁ヨリ西藏前丁ニ架ス

和歌山市

リ、玄關ハ同校現在ノモノニシテ門ハ元中門ナリシガ今ハ第二表門トナリ井戸屋形ハ校内他ノ井ニ移シ舊井ハ用水井トシテ今モ使用セリ井底ニ特異ノ構造ヲ有ス

天正十三年豊臣大閣根來寺ヲ滅セシトキ大傳法院堂舎ノ屋材ヲ此處ニ積置キタルヲ以テ此ノ名アリ川モ亦傳法川ト云フ此ヨリ大阪川口ニ積送リシ故彼地ニモ同名アリト云ヘリ

橋ノ幅二間長十六間、橋杭中二對六本ハ頗ル古キ物ニテ現今セメントヲ以テ保護セリ

太平記大全ニ『將軍義詮尼ヶ崎ニ陣シ給フ時細川頼之紀湊城ニアリ』云々湊城ハ此地ニアリシ城ナラント又一説ニ天文年間中國ノ探題大内義隆ノ臣陶晴賢ノ城ヲ築キシ跡ナリト云ヒ更ニ他ノ説ニ依レハ日本紀ニ載スル所ノ彦五瀬命ノ御事績ニ關スル山城水

七

同 城山

久保町四丁目川邊ヨリ上町ニ至ル間

門ハ此ノ地ニシテ城山ハ山城ノ轉訛ナラン
ト現今ハ市街宅地及ヒ道路ニ變ス

此ノ地方一帯ヲ城山ト云ヒ北島藤半ノ所有
地ナリシガ同人ノ歸依セシ寺ハ道場町妙慶
寺ニシテ家族參詣ノ際人目ヲ避クルタメ台
所ヲ切り抜キテ特ニ通行道路ヲ新設シタリ
故ニ之ヲ春戶地ト云フ

北島氏ハ戰國時代北島村ノ豪家ニシテ海運
業ヲ營ミ常ニ久保町城山ニ居ル

妙慶寺ノ本堂ハ同人ノ建立ニテ同寺門ハ夫
人ノ建立ニ係リ共ニ今尙ホ存ス

小島氏ハ元京都ヨリ此地ニ移リ世々紀藩ノ
能師ヲ勤メ能樂ノ家元ニシテ現戶主ハ十六
代目ナリ

秦燈籠ハ今諸家ニ多ク之ヲ見ルモ初ハ甚タ
稀ナリシモノニテ小島氏ノ秦燈籠ハ先代ノ
京都ヨリ持來リシモノ四百年以前ノ品ニテ
六角形高サ四尺八寸頗ル古雅ナリ

同

春戶地
(春戶路)

久保町四丁
目八、九番
地
同町ヨリ下
町ニ通スル
道路

同

秦燈籠

淡北町二丁
目二番地小
島氏宅後庭
内

小島愛之助

同

加納諸平墓

道場町海善
寺内

同

李眞榮墓
李梅溪墓

道場町海善
寺内

堺市東ノ丁
李滿

寺ノ過去帳ニ

聰明院寂能知學居士

安政四丁己年六月二十四日 兵部五十二歳

トアリ墓石ハ自然石ニテ高サ二尺五寸、台
石一尺ニシテ表面ニ『加納諸平墓』ト刻シ
完全ニ保存セラル

李眞榮墓ハ高サ六尺五寸、幅二尺一寸、厚
サ九寸、表面ニ

大明隆慶五年辛未生

朝鮮國李氏眞榮墓

國朝寛永十年癸酉十二月十九日卒六十五歳
ト刻シ 李梅溪ノ墓ハ高サ二尺三寸三、幅八
寸、厚サ五寸七分、台石一尺三寸ニシテ表
面ニ

李梅溪公墓

側面ニ

天和二年壬戌十月二十二日終
トアリ共ニ完全ニ保存セラル

方四尺ノ小宇中ニ基ノ石碑アリ高サ二尺ト二尺六七寸、共ニ五輪卒塔婆形ノ粗造ナル砂岩ニシテ上ニ各地藏尊ノ頭ヲ載セタリ而シテ高キ方ノ地藏頭ハ特ニ花崗石ナルハ思フニ破壊後更ニ補修セシモノナルベシ寺ノ過去帳ニ

延寶六戊午五月十一日

藤伊了屋信士 夕霧伊左衛門事

トアリ

傳説ニコレハ當市板屋町ノ産藤原伊左衛門ナルモノ歟ノ森御坊裏門前ノ質商北村藤右衛門ノ養子トナル伊左衛門大阪新町九軒吉田屋ノ妓夕霧ニ通ヒ遊蕩豪奢ヲ極メ遂ニ情死セリ當寺ハ菩提寺ナルヲ以テ墓ヲ此ニ設ケタリト此墓ノ卒塔婆ヲ削リ其ノ屑ヲ煎シテ遊蕩ノ夫ニ飲マストキハ數日ニシテ改悛スト稱シ婦人ノ此ノ墓ニ詣ツルモノ多シ、北村藤右衛門ノ家ハ今尙舊地ニ連續現存セリ

同

夕霧伊左衛門ノ墓

男ノ芝丁吹上寺境内稻荷社東側

吹上寺

同

本居大平墓

男ノ芝丁吹上寺境内

東京市外下長瀬谷本居世

同

正清院夫人茶毘ノ跡

男ノ芝丁吹上寺墓地ノ中央

吹上寺

本居大平墓、高サ四尺七寸、幅一尺三寸厚サ九寸五分、表面ニ『本居大平奥都伎』ト刻シ
本居内遠墓ハ自然石ニテ高サ四尺六寸、幅一尺六寸、厚サ一尺、表面ニ『本居内遠奥都伎』ト刻シ何レモ完全ニ保存セララル
土ヲ積テ墳トナシ周圍百二十歩許、墳上ニ自然石ノ碑アリ高サ五尺六寸、幅二尺一寸五分、『正清院殿御火葬之跡』ノ九字ヲ刻ス、墳土石碑ハ現存シ小笹周圍ニ繁茂セリ小笹ハ當初數株ヲ植エシモノ今全地ニ繁殖シタルナリト
正清院ハ南龍公ノ姉君ニシテ會津藩主飛騨守秀行ノ室ナリ
高サ約一間半、幅一尺余、厚サ一尺弱、墓石表面ニ梵字三并ニ元亨參年癸亥十一月二十八日入滅ノ文字ヲ刻ス當寺記録ニ

同 北畠正二位
源大納言師
重卿ノ墓
西汀丁五番
地長覺寺境
内本堂正面
管理者
長覺寺

同 陰山先生之
墓
西汀丁五番
地長覺寺境
内墓地
雜賀屋町東
ノ丁松本兵
藏

同 蓮井象之助
墓
東長町二丁
目正住寺境
内墓地
管理者
正住寺

同 善福寺趾
道場丁
道場
笹本久吉丁

同 濟臨寺趾
下町
小野町二丁
目原庄右衛
門

同 千陽寺趾
東長町一丁
東長町一丁
目岡本長之
助

同 安藤彦四郎
ノ墓
小人町南ノ
丁西岸寺境
内墓地
東京市安藤
男爵
管理者久保
町四丁目寺
島氏

一二
歷應二已卯年師重卿就十七回忌爲父菩提
彌勒寺江親房卿自立則石塔文字親房卿手
跡也此石塔於今寺在之也 五十四歲薨
トアリ完全ニ保存セラル

高サ一尺七寸、幅七寸、但台石ヲ算入セズ
墓石表面ニ陰山先生墓ト刻シ側面ニ左ノ碑
文アリ

先生諱元質字淳夫號東門子弱冠仕紀攪陸
儒曹以博學強記名干一世平素愿撲不街外
飾孝弟之篤實出天性抱狗三歲未嘗一日廢
業今年五月二十日俄而逝矣壽僅六十有四
妻山名氏無子葬于水門長覺寺之先塋
享保十七年歲次壬子閏五月

僚友 祇園阮瑜誌
完全ニ現存ス

五輪石塔ニシテ高サ九尺二寸、紀伊續風土
記ニ詳ナレハ此ニ省略ス完全ニ現存セリ

本寺ノコトハ紀伊續風土記ニ記載セリ、今
廢寺トナリ遺物ハ豊原町一丁目大泉寺ニ藏
シ跡地ハ笹本久吉ノ所有トナル

濟臨寺ノコトハ紀伊續風土記ニ記載セリ六
七年前社寺合祀ノ結果海草郡雜賀村字鹽屋
光明院ニ併合シ跡地ハ原庄右衛門ノ所有ト
ナル

千陽寺ノコトハ紀伊續風土記ニ記載セリ明
治ノ初年吹上寺町惠運寺ニ併合シテ今現存
セズ跡地ハ岡本長之助ノ所有トナル

總高約一丈二尺、幅三尺五寸、厚サ一尺五
寸、碑石表面ニ左ノ文字ヲ刻ス
安藤彦四郎大阪軍門討死生年二十九歲曜
源院殿瑞光崇雲大禪定門
願主 安藤彦兵衛直重

慶長二十乙卯年五月七日
完全ニ現存ス

同 湊築地

加納町ヨリ
久保町四丁
目川岸及
西川保町四
丁久保町四
湊紺屋町濱
ニ至ル間濱

同 雜賀屋長兵衛屋敷趾

雜賀屋町二
十五番地

同 植松長者ノ舊地

植松町?

同 吹上故地

西河岸丁

増井吉兵衛

同 扇ノ芝調練場趾

雜賀屋町東
ノ丁小松原
通一丁目眞
砂町三丁目
差合ノ地、
追廻門ノ南
約一町歩

地積南北約十二町東西ハ北部四町ノ間約半以南ハ約一町

天保七年凶荒ニ遇ヒ疫癘亦行ハレテ餓莩道ニ横ハルモノ多シ當時川口ハ塵埃ニ埋レテ通船ノ便宜シカラザリシカバ窮民救卹ノタメ之ヲ使役シテ川ヲ浚ヘ地ヲ築カシメ其ノ用度ヲ與ヘテ餓莩ヲ免レシメタリ後慶應三年米價高直ニシテ貧民苦シカバ再ヒ天保ノ例ニ倣ヒテ浚築地ノ工ヲ起サシム即チ前ニ成シモノ南半ニシテ後ニ成リシモノハ北半ナリ

雜賀屋町二十五番地即チ有田屋町ヨリ東阪上町ニ至ル廣大ナル市街宅地全部ハ維新以前ニ於ケル富豪雜賀屋長兵衛ノ邸宅ナリ舊邸ハ南方有田屋町筋ニ正門ヲ設ケ兩側ニ二階作リノ長屋アリ東方ハ町ニ沿ヒテ借家ヲ建テ連ネ居タリト云フ現在殘存セルハ南方ノ長屋ト深ク大ナル井戸二個アルノミ

植松長者ノコトハ宇津保物語ニ見ユ假作ノコトナレハ取ルニ足ラザルモ思フニ形ノアリシヲ大袈裟ニ書キシモノナラン現今ノ植松町ハ植松ヲ訛リテ其名ノ今ニ遺レルモノカ

天和ノ記ニ曰ク『西長町ノ北端川端ヨリ一町程上ニ高キ松アリソノ下ニ舊社アリテソノ地ヲ二本松ト云フ御手洗池ノ跡トテ古キ榎アリ天正中社ヲ小野芝ニ移シソノ地ハ六十年程前ニ同心屋敷トナル御手洗池ノ跡ハ今ニアリ土人吹上ノ宮ノ跡ト云ヒ傳ヘタリ』ト古キ榎ハ今ニナホ存ス

維新前ハ此ノ地北ヨリ東南ニ廣ガリ恰モ扇ヲ開キシ如クナレバ此ク名ツケタリ芝生ノ中ニ二個ノ池アリ眼鏡池ト云ヒ又要ニ當ル邊ニ要松ト稱スル松アリシト云フ維新當時此ノ芝生ハ藩ノ調練場トナリシコトアリ

同 新堀川趾 北川岸町

運河兼城隍ニテ幅約四十間、長サ約六丁ナリ正保年中藩主頼宣雜賀川ト水軒川トノ連絡ヲ企テ鑿掘ヲ始メタルニ紀藩要害ヲ修ムルトノ嫌疑ヲ受ケ工事亦稍困難ナルヲ以テ中止シタリト云フ今ハ之ヲ埋立テ縣營并ニ市營ノ住宅ヲ建設シタリ

天然記念物 公孫樹 真砂町報恩寺内 真砂丁報恩寺

今ヨリ約二百五十年前ニ發芽セルモノナリト云ヒ傳フ暴風雨毎ニ枝ヲ折ラレタルモ尙ホ成長ノ勢アリ現在高サ約十三間周圍七尺アリ

史蹟 藩祖頼宣夫人墓 二代光貞夫人墓 五代吉宗夫人墓 真砂丁報恩寺内 管理者真砂丁報恩寺

徳川家ノ菩提寺ハ海草郡濱中村長保寺ナルモ一門中法華宗ニ歸依セル方々ハ當寺内ニ埋葬セラレ現時ニ至ルモ原形ヲ失ハズ墓石ノ高サ一丈二尺、一丈一尺五寸、一丈一尺、凡テ徳川侯爵家ノ所管ナリ

同 柳原藤兵衛尉光金墓 尾崎丁西要寺内 尾崎丁西要寺

光金ハ元禄年間ノ人ニシテ久保町三丁目ニ住ミ富豪ノ金品ヲ盜ミテ之ヲ貧民ニ施シ以テ義賊ノ名ヲ博ス元禄十年三月一日和歌浦ニ於テ將ニ捕縛セラレントスルヤ徳利ノ内ニ隠レテ行ク所ヲ知ラズ時ノ人ソノ徳利ヲ當寺内ニ埋メテ墓トナスト現今ニ至ルモノノ原形ヲ變セズ面積一坪許ノ内ニ四尺位ノ碑アリ

同 吹上ノ濱 湊ノ南部

今福ノ邊ヨリ和歌關戸西濱ノ北ノ邊、古ノ濱海ノ地ナリ吹上ノ濱トイフハ西南ノ風烈シキトキハ白砂ヲ高ク吹上ケテ一夜ノホトニ一處ニ吹キアツメテ山ヲナシ又暫シガ程ニ吹散ラシテ元ノ平地トナリ常ニ風真砂ヲフキ上ルヨリ起ル昔ヨリ月ノ名所ニシテ文苑古詠數多シ

岡山ニアリ吹上ヨリ廣瀬ニ越ユル阪道ニシテ古ハ國津輪阪トモ云フ聖武天皇玉津島行

同 車 阪 豐原町

同 辨財天山 岡公園 管理者 和歌山市

同 堀詰川又屋 番丁東書ト 屋形町トノ 間

幸ノ御時風聲コ、ヲ越エサセ給フト言ヒ傳
フ又一説ニ昔時熊野御幸ハ凡テ此ノ道ナレ
ハ鳳輿ノ轍ヲソノマ、阪ノ名トナスト或ハ
云フ小栗判官熊野ノ温泉ニ通ヒシ道ナルヲ
以テ稱スト然レドモ古昔熊野街道ハ此ノ地
ヲ經ズ後ノ説甚タ信ジ難シ

石山ナリ古ノ海岸ニシテ今尙浪打際ノ形遺
レリ昔時山上ニ辨財天社アリシガ寛文以前
ニ岡ノ宮ノ境内ニ移シタリ藩政ノ頃ハ諸臣
ノ邸宅山麓ヲ環繞シ此ニ登攀スレハ城内ヲ
モ俯瞰シ得ラル、ヲ以テ登山ヲ禁シタリト
云フ

番丁ノ東北書ト三木町堀詰町トノ間ヨリ起
リテ南へ約五町、五番丁ニ當リテ東ニ折レ
屋形町三丁目ニ至リテ再ヒ南折シ三番丁ノ
東ニ至ル、長サ約九丁、幅約十間、舊ハ夫
レヨリ更ニ西ニ折レテ番丁ノ南書ヲナシ城

同 聖武天皇離 廣瀬通り丁 附近

同 奥山城趾 岡山ノ内

天然記念物 棕ノ樹 畑屋敷端ノ 丁七番地 新堺丁 奥 清助

濠ト連續シタルモノナルガ今ハ其ノ間ヲ埋
立テ街路ヲ開ケリ此ノ堀川ノ起工並ニ竣成
ノ年次ハ未ダ詳ナラサルモ恐ラクハ徳川藩
ノ初期ナランカ

廣瀬八百屋町即チ今ノ廣瀬通り丁附近ニア
リ續日本紀ニ「聖武天皇神龜元年天皇至海
部郡玉津島頓宮留十有餘日戊戌造離宮於岡
東」トアルハ即チ此ナリ今此地ヲ宮ノ壇ト
云フ舊ト八幡宮ノ祠アリシガ寛永年中之ヲ
岡ノ宮ノ境内ニ移シソノ跡ニ井ヲ穿チテ堅
ク汚穢ヲ禁ジタリト

和歌山城ヲ距ル三丁許南岡山ノ内ニアリ
畑屋敷ハ藩政時代ニ於テソノ大部分ハ田邊
藩主安藤氏家臣ノ住居セシ處ニシテ此ノ樹
モ某邸内ニアリシモノナリ周圍九尺高サ七
間余アリ

史蹟
道案内ノ標石
鈴丸丁 万精院
鈴丸丁 万精院

同
伊藤蘭嶋ノ碑
鈴丸丁 法連寺
伊藤氏

同
安藤家ノ墓七十基
新金屋丁 崇賢寺
舊田邊藩主 安藤家

同
野田文恭碑
新中通六丁 目西法寺
野田氏

同
新町川
鈴丸橋ヨリ 直北、宇治部ト北新町部トノ境

同
新留町築地
新留丁

標石ノ附近ハ古昔辨天ノ森ト稱ヘ近頃マデ松ノ大樹アリシト又小栗街道ト稱セシヲ以テ彼ノ小栗判官ガ通行セシ處ナリト言ヒ傳フ 標石ハ高サ三尺余、幅七寸四面アリテ石面ニ

これより紀三井寺壹里、こかは六里、あはしま三里、北のかたに茶屋有
ト刻セルモノ辛フシテ之ヲ讀ミ得ベシ

當市ニ於ケル大儒伊藤蘭嶋先生ノ碑ニシテ高サ約四尺、碑文ハ文字ノ彫刻淺キト且ツ苔蒸シテ之ヲ蔽フタメ殆ト讀ムヲ得ズ

崇賢寺ハ安藤家第二代直治公ガ父君直次菩提ノタメニ創建セルモノニシテ寺名ノ起因モ藤巖院崇賢居士ノ法名ニ基クモノナリ 寺内約三百六十坪ノ内ニ累世ノ墓碑林立シソノ中ニ初代ニ於ケル山口孫六平、二代ニ於ケル朝山角之丞、前野與三右衛門、三代

ニ於ケル今井與左衛門、今井平八以上五人ノ殉死者ノ碑ハ各ソノ主君ノ碑後ニ立テリ 文恭ハ海草郡中ノ島村ノ人、諱ハ好古、字ハ尙甫、中洲ト號ス、漢學者ナリ寛政三年十二月十日逝ク、碑ノ高サ三尺五寸餘アリ 碑面次第ニ歛損ス

又眞田川トモ云フ長サ約七町、幅約十餘間、徳川氏ノ封初之ヲ穿ツト 因ニ之ニ架セル甫齋橋ハ淺野藩主時代ニ山本甫齋ノ架シタルモノナリト

市内築地ノ最モ古キモノニシテ舊ハ藻屑川葭原ノ地ナリシヲ元和八年中ノ島村江島藤六ナルモノ藩ノ許可ヲ得辨財天山ノ砂石ヲ運ビテ之ヲ埋立テ平地ヲ作ル、依テ其ノ當時ハ築屋敷ト云ヒ又藤六町ト云ヒタリ

同 明人吳五官ノ碑

橋向丁十二番地大立寺内

橋向丁井邊明學

吳官名ハ任顯、明國福建省龍溪縣ノ人、明未ノ亂ヲ避ケテ我カ寛永九年彼地ヲ出帆シ日本ニ來ラントシテ途中風波ノ難ニ逢ヒシモ辛フジテ長崎ニ着ス時ニ年二十七、長崎ニ止ルコト四年ニシテ當地ニ來リ田中町ニ住ス、今ノ五官小路ハソノ邸宅ノアリシ所ナリト云フ、延寶六年正月七十三ニシテ没ス

石碑ハ高サ三尺、幅八寸、正面ニ

本國大明福建省吳五官任顯

側面ニ延寶六年子正月ト書シ他ニ法名ヲ刻セルモ風雨ニ曝サレテ表面磨滅セリ

同 郭公松ノ舊蹟

南材木丁一目

海草郡龜川村中井長兵衛

郭公松ハ元和ノ頃井口某ノ栽植セシモノナルガ何時ノ頃カ枯レ果テタレハ其ノ跡ニ石ヲ立テ郭公松ト刻シ尙石面ニ黒岩道碩御預立ト銘セリ石ノ大サ高二尺幅一尺五寸位

元和年中ノ命名ニ係リ文政六年六月ヨリ高

同 京 橋 市ノ中央 和歌山縣

欄回リ銅板包トナル長幅、構造其他ニツキテハ古來多少ノ變遷ヲ經タルモ欄干柱頭ニアル青銅ノ擬寶珠(左右各六本)ハ往時ノ遺物ニシテ市内橋梁中此ノ裝置ノ現存セルハ唯一ツノ京橋アルノミ

同 堀 川 市内中部

天正十三年豊臣大關ノ天下ヲ一統スルヤ此ノ地ヲ羽柴秀長ニ賜ヒテ城ヲ此ニ築カシメ郭外ノ東西ニ川ヲ掘リ西ハ傳法ヨリ湊川ニ通シ東ハ鈴丸川ニ至ツテ廣瀬ヨリ和歌川湊川潮汐相通シ城下ヲ貫キテ運漕ニ便ナラシメタリ

同 火見橋 寄合橋二十番地

底面積四坪、高サ六間許、舊藩時代ヨリ明治三年マデ現存セシガ漸次腐朽シテ危險ノ状態トナリシヲ以テ終ニ之ヲ取除キ其ノ跡ニ民家ヲ建築セルモ其ノ南隣ナル當時番所タリシ家ハ現存シテ今ハ普通ノ住宅トナレリ

同 嫁ケ皿 (手水鉢) 專光寺門前 丁專光寺内 管理者 專光寺門前 丁島辨立

同 生魚石 橋丁内町西 尋常小學校 和歌山市

天然記念物 公孫樹 鷺ノ森御坊

長サ約六尺、幅四尺、高サ三尺、体積約七十立方尺、花崗岩ニテ作レリ、天正年間本願寺ノ顯如上人ノ命名シ以前ハ鷺ノ森南ノ丁忍冬酒ノ醸造元北村源次郎太夫ノ許ニアリシガ明治ノ初年當所ニ預カリタリ長年月ヲ經過セシモノナレハ風化シ且ツ所々破壊ヲ生シ容易ニ石理ヲ認メ難シ

大サ一才半、元海草郡岡崎村大字寺内寺澤氏方ノ大極柱ノ礎石ナリシガ明治十一年和歌山市福町中井氏ニ之ヲ贈リ其ノ後明治四十二年中井氏ヨリ更ニ本校ニ寄贈セラレタリ現在講堂前ノ校庭ニ据置カル
地上ヨリ五尺ノ處ニテ幹ノ廻リ一丈六尺五寸、樹ノ高サ八十四尺、樹齡凡三百五十年
慶長年間淺野幸長ノ此ノ國ニ封セラレ、ヤ鐘樓ヲ此ニ設ケ時ノ鐘ヲ鳴ラシテ市民ニ便

史蹟 時報鐘樓趾 本町五丁目 始成尋常小學校裏 和歌山市

ナラシメタリ、鐘樓ハ當時ノマ、ニテ四百余年ニ及ヒシガ數年前始成小學校敷地擴張ノタメ取毀タレ鐘ハ和歌山城内天守閣ニ移シテ之ヲ保存セリ鐘ノ口徑約四尺ニシテ銘ナシ

同 柳井戸 新魚町專養寺内 新魚町 佐々木祐定

專養寺住職佐々木氏ノ祖安藤左衛門尉祐綱ハ元三河ノ人ナリ嘗テ同國柳堂トイヘル堂宇ニ於テ親鸞聖人ニ謁シ眞性得語ノ強縁ヲ以テ眞宗ニ歸依シタレハ其ノ後此ノ地ニ來リテ當寺ヲ建立スルヤ井戸ニ柳ノ銘ヲ冠セシメタルナリト云フ同井戸ノ水ハ清潤甘味ニシテ四時増減ナク茶ニ用ヒ味最モ好カリシトイヘドモ近時附近ニ捺染工場、晒工場等數多設ケラレタレハ今ハ井水飲用ニ適セズ

幹ノ直徑約七尺、高二十間餘、樹齡既ニ五百年ニ及ブトイフモ枝葉繁茂シテ生育甚ダ

天然記念物

楠

新魚町十五番地宇治神社境内

二六

盛ナリ實ニ地方稀ナル大木ニテ古來世上ニ神木ト稱ス現今ソノ周圍ニ木柵ヲ施シ樹幹ニ注連繩ヲ張リテ手ヲ觸レシメズ

海草郡

區分名稱所在地所有地

現狀又ハ由來傳説

史蹟 岡田城趾

龜川村大字岡田字城山山林

管理者 龜川村長

一般ニ平坦ナル菅原ニシテ二十年生ノ松樹其ノ間ニ点在セリ 本城ハ正平年間島山義深ノ家臣遊佐某ノ居リシ處、明德年間大野城主山名義理ノ一族桑原彈正之ニ代リ天正年間兵燹ニ罹リテ燒失セリト云フ 城趾今尙歴然タリ

同 影向石

龜川村大字且來字山出山林

管理者 八幡神社掌

八幡神社ヲ距ル上方約一町ノ森林中ニ元立シ高サ一丈五尺許ニテ北面セリ傳ヘ云フ此ノ地ハ往古神功皇后三韓ヨリ御凱旋ノ際皇子譽田別命ト共ニ都ニ赴カセ給ノ途次御經

同 正法寺趾

龜川村大字岡田字城山山林

龜川村岡本条太郎

歷ノ地ニシテ聖駕ヲ駐メ給ヒシトキ皇后皇子ト共ニ親シク御登臨アラセ給ヒシ舊蹟ナリト
雜木林ニシテ所々ニ五輪ノ石塔点在セリ本寺ノ開基ハ何時頃ナルカ之ヲ知ルニ由ナシト雖往古ヨリ眞言宗正法寺トシテ幾多ノ星霜ヲ經タリ蓮如上人近地巡錫ノ際當時ノ住職ハ上人ニ歸依シ新ニ一字ノ堂塔ヲ造リテ改宗セシニヨリ廢寺トナレリ

同 四ッ石

龜川村大字多田字村ノ内畑

管理者 龜川村正覺寺住職

往古巽村大字別所願成寺ノ開山湛慶上人ノ住セル千光寺ノ礎石ニシテ同寺廢絶ノ後最も巨大ナルモノ四個ヲ此ノ地ニ集メ置キタルモノナリ今ハ一小庵ヲ營ミ四ッ石ノ上ニ石佛ノ地藏尊ヲ安置ス

天然記念物

松尾寺ノ松

龜川村大字且來字北山寺院敷地

龜川村松尾寺

高サ十二間余周圍一丈二尺ニ及ブ樹齡凡ソ三百五十年鬱蒼ク孤松ニシテ遠ク里余ノ所ヨリモ望ムヲ得ベシ

二七

史蹟

聖武天皇
宮ノ遺蹟

紀伊村大字
府中字御館

紀伊村

人皇四十六代聖武天皇ノ御時神龜元年天皇
紀伊國名草村ニ行幸ノ旨勅使ヲ以テ御知ラ
セアリシヲ以テ早速假ノ御殿ヲシツロイ
シニ三ヶ年間御宮居アラセラレタリ依テ名
草村ヲ府中ト改ム又御館ノ名ハ御館ノアリ
シヨリ起ル今ハ影臨寺ノ境内トナレリ

同

近江藤六ノ
墓

紀伊村大字
府中字平林

和歌山市
水野徳之助

關原役ニ水野氏ノ祖某幼年ノ身ヲ以テ軍ニ
從ヒ克ク戰ヒテ西軍ノ勇將近江國某城主近
江藤六ト銜ヲ交ユ藤六西軍ノ利アラザルヲ
知リ勝ヲ水野氏ニ讓リテ戰死シ水野氏ハ其
ノ功ニヨリテ戰後千石ヲ賜ハリタレハ後承
應三年水野内膳正重ソノ恩義ニ感ジ碑ヲ此
地ニ建テタルナリト同所ニハ水野家累代ノ
墳墓アリ

同

國府ノ遺跡

紀伊村大字
府中字平林

紀伊村
阪部 登

中世國府ヲ置カレシ遺蹟ニシテ其ノ後徳川
時代ヨリ明治初年マデ水野家ノ別墅ノアリ
シ處ナリ明治初年頃マデハ樹木蒼鬱畫尙暗

キ林野ナリシガ(平林ノ字名ハ之ヨリ起ル)
同四五年頃阪部氏之ヲ買收シ開墾シテ田ト
ナシ今尙同氏ノ所有タリ

同

オンジャク
石(磐石石ノ
誤カ)

紀伊村大字
上野ノ北方
五丁ノ原野

紀伊村大字
上野

石ノ中央ニ直徑四尺位ノカスカナル圓キ凹
ミアリ柱尻ノ臍ヲ入ル、處ナルベク思フニ
大塔ノ中心ノ礎石ナルベシ附近ニ此ノ外礎
石ハ規則正シク相並ビ皆大サ三四尺ノ長幅
ヲ有シ中央ニ直徑三尺位ノ圓形ニ稍々凹ミ
又ハ凸出アリ昔ハ此處ニ七堂伽藍存在シタ
リトテ今モ附近ニ無量壽山西明寺等ノ地名
ヲ存シソノ土地ヨリ古釘古瓦ノ破片ヲ發見
スルコト少カラズ古老ノ言ニ寺塔ハ根來合
戰ノ兵火ニカ、リシガ本尊藥師如來ハ火災
ヲ免レテ今ハ正樂寺ニ安置セリトイフ

朝臣塚ハ何人ヲ埋葬セルカ詳ナラサルモ小
高キ丘ヲナシ住民呼ビテ天主冨ト云ヒ又此
ノ邊一帶ヲ西ノ山ト稱ス

同

朝臣塚

鳴神村大字
惣垣内 田

鳴神村
田畑春之助

同 貝塚 鳴神村字惣畑地 清水 鳴神村 清

貝塚ノ地邊ヲ貝殻ト稱ス今ニ至ルマデソノ地中ヨリ多クノ貝殻ヲ出シ殊ニ土地一面貝殻ノ碎片ヲ以テ構成セルカノ如キ觀アリ又時々石鏃石斧ノ破片ノ如キモノヲ出セシコトアリト云フ

同 妙景山興德寺址 鳴神村字惣畑地 岡 鳴神村 德次郎 外五名

興德寺ハ文保年間國造五十七代俊文朝臣ノ時大燈國師ノ開基ニ係リ昔ハ本堂方丈鐘樓二王門等壯麗ナル大建築物アリシガ天正年間太田城水攻ノトキ兵火ニテ烏有ニ歸シ本尊ノミソノ厄ヲ免レテ今ハ玄妙寺ニ安置セリ

同 音浦山惣光寺址 鳴神村字惣畑内 鳴神村 齊藤 得忍

惣光寺ハソノ開基年代詳ナラザルモ天正年間マデハ興德寺ト同ク眞言宗ノ寺院トシテ存在セシガ此レ亦天正ノ兵火ニカ、リ唯觀世音ノ佛体ノミハ今宮村ナル夢ノ妙見堂ニ安置セリ

同 成合ノ松原 和歌浦町 官 有

現在ノ和歌街道ハ元和ノ頃ノ開設ニ係リソレ以前ハ少シ西方ニアル關戸往來ノ細道ナレドモ古時成合ノ松原ハ此邊ノ總稱ナレバ現時ノ並木松モ亦ソノ一部ト認メラル

天然記念物 祝口石 和歌浦町字金山 官 有

和歌街道ニ接スル岩窟ニシテソノ形ニヨリ命名セルモノ

同 龜遊岩 和歌街道秋葉山麓 和歌浦町 官 有

碑石ハ李梅溪ノ書

同 片葉葦 和歌浦町字北垣内 雜賀村 谷井 勘藏

往古本願寺顯如上人信長ニ追ハレテ窮迫ノ余此ノ葦原ニ隠レタルニ葦ノ葉俄ニ一方ニ片寄り上人ヲ蔽ヒシトノ傳説アリ

史蹟 鶴立島 和歌浦町字鶴立島 官 有

碑石ハ李梅溪ノ書

同 望海樓遺址 和歌浦町字津島神社境内 縣 有

文化十年仁井田好古ノ撰書

同 奠供山碑 和歌浦町字奠供山頂 縣 有

天保十三年仁井田好古ノ撰

同 玉津島頓宮 和歌浦町玉津島神社境内 縣 有

同 芭蕉ノ碑 和歌浦町鏡山東麓 縣 有

同 法華經題目梵語石碑 和歌浦町妹春三斷橋詰 縣 有

同 石 檠 和歌浦町玉津島神社内 玉津島神社

芭蕉翁ノ筆 行春を和歌の浦にて追付けり
碑高一丈余慶安元年竹元丹後ナル者海島ニ
テ二個ノ大石ヲ得之ヲ夫婦石ト名ク本碑ハ
ソノ雌石ナリ刻ム所ノ文字ハ陽文凸出セリ
正徳四年靈元法皇ノ御寄附

同 武内宿禰誕生井 安原村大字松原字問谷山林 管理者 安原村長

孝元天皇ノ皇孫屋主忍男武雄心命景行天皇
ノ三年ニ命ヲ奉シテ紀伊ノ群神ヲ祭ル阿備
ノ柏原ニ至リ居ルコト九年菟道彦ノ女影媛
ヲ娶リ武内宿禰ヲ生ム即チ此ノ地ナリ境内
東西十間南北十五間松樹生茂リソノ内ニ井
戸アリ享保年間官命ニヨリ井邊ニ登ヲナシ
井欄ヲ鎖シテ平日汲ムヲ許サズ傍ニ碑ヲ建
テ武内宿禰誕生井ト刻ス昔紀伊侯ニハ累代
公子誕生ノトキハ必此ノ井水ヲ産湯ニ用ヒ
タリト云フ

同 御船山 安原村大字塚地 管理者 安原村長

江南ノ西北田畦ノ中御船ノ芝、艸ノ芝、權
ノ芝等アリ總稱シテ御船山ト云フ此ノ地上
古ハ入江ナリ神功皇后新羅ヨリ歸リ給フト
キ皇子ヲ筑紫ノ蚊田ニ生ミ給ヒ翌年武内宿
禰命ヲウケ皇子ヲ奉シテ南海ニ來リ江南郷
ニ行宮ヲ起シテ之ニ居リ給フコレ幡宮ナリ
舊址今尙巖然トシテ形ヲ存セリ

同 鷹ノ巢 雜賀崎村大字鷹ノ巢 管理者 雜賀崎村長

巖ハ絶壁ニヨリテ隼鷹巢ヲクム故ニ名ク洞
アリ昔教如上人織田軍ノ追捕ヲサクルタメ
洞内ニ身ヲ潜メテ難ヲ免レシ所ナリ
西ニ向ヒニ突出シタル岬アリ舊藩時代ニハ
此ノ岬ニ番所ヲ置キ此所ヨリ北ニ續キテ突
出セル處ニ台塲ヲ設ケタリト云フ

同 台塲 雜賀崎村大字永尾 和歌山市 滋野左右吉

沖ノ島ノ地ノ島ト相對スル處絶巖ノ海ヲ出
ツルコト高サ百五十余仞、石面ノ廣サ十五
仞平ナルコト削ルガ如ク下ヨリ高サ三分ノ
一ニシテ石面ヲ窪ルコト方二丈許リ左ノ文
字ヲ彫刻ス文字大ナルハ方四尺小ナルハ方

同 禁殺生穢惡碑 加太町大字加太字友ヶ島 陸軍省

二尺南龍公ノ命ニヨリ李梅溪ノ書スル處ナリ

禁殺生穢惡

友ヶ島 五所

觀念窟 序品窟 關伽井 深蛇池 劔池

寛文五巳酉彫

同 仁井田好古ノ墓

加太町大字加太字墓谷

管理者 夫源寺住職

山麓ヲ開キタルモノニシテ上層下層ノ二段トス其ノ間ニ石礎アリ上層ハ約十五坪下層ハ十二坪ニシテ好古ノ墓碑ハ上層ニアリ

伊都郡

區分 名稱 所在地 所有者

史蹟 庚申山一名陵山

橋本町大字古佐田官有地

管理者 陵神社

現狀又ハ由緒傳説

老松杉生繁リ正面ニ石壇アリ中央ニ高サ四尺廻リ二丁余ノ圓キ塚アリテ周圍ニ巾二間許リノ湟ヲ廻ラセリ其ノ邊ニテ管玉曲玉ヲ拾ヒシ人モアリト云フ此塚總テ石ヲ疊メルガ上ニ苔衣厚ク重リ頂上ニ小祠アリ數年

前塚ヲ發掘シタルニ石棺アリテ土器ヲ得タリト此塚ハ紀古佐美ノ墓ナリト云ヒ或ハ阿知使主ノ墓ナリトモ云フ後者ノ方眞ニ近キガ如シ

周圍約一丈高サ約三尺ノ塚二個東西ニアリソノ間二三間ヲ隔ツ南面ニ石ヲ建テ、文字ヲ刻セルモ讀ミ難シ東ナルヲ是方ノ墓ト云ヒ西ナルヲ妻女ノ墓ナリト云フ仙人翁是方ハ此地ノ富豪ナリ大永三年後柏原天皇ノ第三宮青蓮院門跡尊鎮法親王高野山ニ御住山ノ間忠實ニ奉仕セシコト叡聞ニ達シ參内仙人翁ノ名ヲ賜ハリタリ

碑ノ高七尺五寸五輪塔、應其上人當地ニ錫ヲ駐メテ引ノ池ヲ造リ野山ノ高僧ヲ招キ池ノ東方山腹ニ地ヲトシテ法華經ヲ納メタリ村民ソノ德ヲ慕ヒ此ニ碑ヲタテ毎年六月三十日祭ヲナス大正三年石碑ヲ池ノ西方山麓ニ移シタリ

同 是方ノ墓

笠田町大字東

笠田町木下文藏外五名

同 應其上人碑

應其村大字名古曾

應其村

同 一里松 應其村大字 官 有

樹幹周圍五尺、和歌山ヲ距ル十里ノ道標ニシテソノ昔罪人ノ赦免セラル、者ハ必ス此處ヨリ追拂ハレタリト云フ

同 三重塔廢趾 山田村大字 山田村大字 神野々

延曆二十四年五月僧燈法師位聽福於紀伊國伊都郡立三重塔爲聖躬平善也
トアリ今此地ニ殘レル礎石ヲ見ルニ後紀ニアル三重塔ハ恐ラク此處ニアリシモノナラシ

同 養史和尙ノ墓 紀見村字矢倉脇 紀見村上垣榮太郎

養史和尙ハ一休禪師ノ法兄ニシテ洛北紫野大德寺第五世ノ住職ナリ後花園天皇ノ御宇隱退シテ此地ニ德禪院ヲ建立シ之ニ住ス德禪院ハソノ後荒廢ニ歸シ和尙ノ石像モ山崩ノタメニ倒レシガ後舊地ニ安置シ今尙之ヲ存ス

同 古墳 隅田村大字 隅田村大字 中島

トヲ得ベシ内部ハ奥行約一丈巾約五尺高サ六尺アリ何人ノ塚ナルヤ詳ナラズ口碑ニ武内宿禰ノ塚ト云フ

同 八幡塚 隅田村大字 隅田八幡神社

八幡神社本殿ノ後方ニアリ周圍廻ラスニ土塀ヲ以テシ中央堆高クシテ寶篋印塔一基ヲ建ツ應神天皇、神功皇后ノ遺蹟ナレハソノ遺物ヲ納メタル所ナリト云ヒ傳フ

同 戸谷新右衛門ノ石碑 學文路村大字 學文路村戸谷熊右衛門

吉宗將軍ノ頃高野領内苛稅ヲ課セラレ農民塗炭ノ苦ヲ受ケタルヲ以テ義民戸谷新右衛門ハ一同ヲ代表シ江戸ノ社寺奉行ニ訴ヘシガ高野山ヨリ極刑ニ處セラレ此ニ葬リタルナリ、碑文ハ風化ノタメ明ナラズ

同 石塔 學文路村大字 學文路村定福寺

九輪塔ノ内一重紛失シ今ハ八重トナレリ銘ニ曰ク
弘安第十曆乙酉願主黃善敬白
何ノタメニ建タルカ明カナラザルモ弘安年間ノモノナラン

同 岐阜中納言 秀信卿ノ墓 學文路村大 學文路村大 西廣一

秀信卿此地ニ塾居シテ逝去セリト大正六七年頃織田家ノ子孫トイフ者相謀リテ碑ヲ此ニ建ツ從來此ノ地ニ善福寺アリシガ近來朽廢シテ取毀サレタリ

同 朝塚山 御陵傳説地 河根村大字 丹生川字宜 宮内省

朝塚山ハ丹生川ノ清流ソノ下ヲ流レ風光頗ル佳ナリ山上ニ長慶天皇ノ御陵ト云フアリ五輪塔三基アリテ御遺物ヲ埋ムト云フ塚ハ此ヨリ二間許ノ北ニアリ

同 玉川宮趾 河根村大字 丹生川 河根村 井本祐晃

井本祐晃ノ居住ニシテ建物ノ一部ヲ存ス庭園ニ龜石アリ大奇石ニシテソノ下ニ龜ノ井アリ長慶天皇御讓位後潜居アラセラレシ跡ト云ヒ傳フ

同 宜下平ノ墓 河根村大字 丹生川 河根村大字 丹生川

後醍醐天皇第六ノ皇女惟子ハ長慶天皇ノ御叔母ニ當ラセラレ明野宮ト號シ落飾シテ觀阿彌ト申スノ御墓ナリト云ヒ傳フ區内無縁ノ墓石十數基ト共ニ並セ祭レリ

同 南藏院趾 見好村大字 寺尾 見好村大字 寺尾

弘法大師伽藍ヲ建立シ古ハ寺院三十六坊アリシガ天正ノ兵火ニ燒失セリト現今ハ大部分畑地ニ開墾セラレ大師堂不動石像、一字一石塔、庭園ノ一部分殘レリ東西三丁南北二町許

同 鎌八幡宮趾 見好村大字 兄井 見好村 丹生神社

神社合祀跡地ニシテ若干ノ立木アリ鎌八幡神社ノアリシ頃社壇中ニ櫟ノ大樹アリテ之ヲ神体トシテ祭り祈願ノ者ハ鎌ヲ打込ムニ祈願ノ成就スルモノハ鎌ノ樹ニ入ルコト次第ニ深ク、叶ハサルモノハ鎌落ツト云フ

同 石塔二基 天野村大字 上天野 天野村 杉本龜吉

西行法師諸國ヲ遍歴シ來リテ高野山ニ住ミシトキ昔ノ妻ナルモノヲ携ヘテ尋ネ來リタレハ西行ハ佛道ニ誘ヒテ共ニ出家セシメ兩女ハ西行ト共ニ此地ニ住メリ元西行堂アリシガ何レノ時代カ廢絶シタリ二女ハ此地ニ終リタレハ思フニソノ碑ナラン

靜覺法親王ハ後花園天皇ノ御猶子ニシテ御

同 靜覺法親王
御墓推察地

高野村大字
花阪

高野村
眞野定吉

名勝 不動岩

隅田村大字
眞土

官 有

室ノ宮タリ應仁ノ亂ヲ避ケテ高野山ニ遁レ
遂ニ花阪ニ閑居シ文龜三年薨シ給フソノ御
墓ト推察スル所ナリ目下宮内省ニ上申中現
時山林ニテ高サ二尺ノ五輪塔アリ
岩石ニ不動ノ像ヲ刻ス弘法大師ノ作トイヒ
傳フ此處紀伊大和ノ兩山相迫リテ其ノ間僅
ニ一帯ノ流ヲ通シ兩岸相迫ル處奇岩怪石錯
立シテ一奇觀ナリ

同 船岡山

見好村大字
島官有地

管理者
村社嚴島神

紀ノ川ノ中島ニシテ形舟ニ似タリ故ニ此ノ
名アリ南ニ妹山北ニ脊山アリ老樹鬱蒼トシ
テ枝ヲ交ヘ紀ノ川ノ清流ハ岩壁ヲ洗ヒ碧潭
藍ヨリモ青ク絶好ノ遊園地ナリ中央ニ村社
嚴島神社ヲ祀ル永承三年關白頼通高野參詣
ノ節此處ニテ舟遊ビシタリト云フ

天然記念物 しきん石

學文路村大字
字清水東畑
ヨリ向副倉
谷ニ亘ル山

民有山林

綠泥片岩、紅簾片岩、石灰岩ヨリ成ル形奇
兀タルヲ以テ古來庭石トシ愛翫セラル

同 佛法僧鳥

高野村大字
高野山奥ノ
院附近ノ森

—

同 玉川ノあひ
雜魚

高野村大字
高野山金剛
峰寺境内御
廟橋下流

高野村
金剛峰寺

弘法大師後夜ニ佛法僧ヲ聞クノ詩アリ鳥ノ
鳴聲閑寂ニシテ佛法僧ト聞ユルモ其ノ形ヲ
見タルモノナシ蓋シ鳩ノ類ナラン珍禽ナリ
雜魚ノ脊ニ白キ斑点アリ弘法大師串ニサシ
タル魚ヲ放チタレハ斑点ハ串ニサ、レタル
痕ナリト云フ傳説アリ

同 萬年草

高野村大字
高野山奥ノ
院附近ノ森
林内

高野村
金剛峰寺

長サ約二三寸ソノ形杉葉ニ似タル苔ナリ森
林内所々ニ簇生ス人ノ遠地ニ在リテ生死ノ
知レザルトキ此ノ草ヲ水ニ浮ベ若シ青色ヲ
呈スレハ其ノ人無事ナリト云フ高野山ノ靈
草ナリ

附
錄

本縣史蹟名勝天然記念物調査會

大正十二年
度通常會

本縣史蹟名勝天然記念物調査會

大正十二年度通常會

本縣史蹟名勝天然記念物調査會規程第四條ニ基キ大正十三年二月五日縣廳ニ於テ左記順序ニヨリ

二月五日 午前十時開會 午後四時閉會

午前 知事 開會ノ挨拶

史蹟名勝天然記念物調査保存協議

午後 午前ノ續キ

内務部長 閉會ノ挨拶

大正十二年度通常會ヲ開キタリ出席者ハ佐竹知事、松村内務部長、木村理事官ノ外

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 小原 興 | 久保時男 | 北谷 亮 |
| 小倉隆藏 | 東平四郎 | 乾芳男 |
| 寺本福一郎 | 勝田良太郎 | 岩橋喜次郎 |
| 田原慶吉 | 紀俊 | 富田傳 |

ノ各委員ニシテ左記議題ニツキ

議 題

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 小川由一 | 阪口正一 | 城本藤太郎 |
| 阪本周吉 | 芝口常楠 | 中島壽三 |
| 宇井縫藏 | 太田馬太郎 | 小野芳彦 |
| 上地龜義 | 西岡彰夫 | 西尾 秀 |
| 池村平太郎 | 益田之熙 | 重田重一 |
| 茂田奇夫 | 榎本佳樹 | 井村米太郎 |

一、左記史蹟名勝天然記念物中法律第四十四號史蹟名勝天然記念物保存法ニ基キ内務大臣ニ對シテ指定ノ申請ヲナスノ價値アリト認ムルモノヲ選擇スル件

史 蹟

- | | | |
|-----------|----------|------|
| 太田城水攻ノ堤防趾 | 太田城趾 | 秋月城趾 |
| 國分僧寺塔趾 | 國分尼寺塔趾 | 三ツ塚 |
| 高野山町石 | 崇源夫人五輪石塔 | 佛號板碑 |

豊臣家墓所

ゆかんと森

宗祇屋敷

上田和隧道

切目崎ノ塚穴

目津ノ定六

瀧見堂

尼將軍様

佛体埋藏地

維盛五輪堂

蓬萊山

徐福ノ墓

瀧尻王子社

向山ノ古墳

禪尼上智碑

湯淺城趾

上品堂

龜山城趾

切目村ノ古墳

松平山城守ノ墓

龜山院御卒塔婆

濱宮頓宮ノ遺趾

花山法皇御籠所

松音寺遺趾

丹鶴城趾

御手洗海岸

濱ノ王子權現社趾

片山ノ古墳

法明上人墓

明慧上人誕生地

中品堂

鶴ヶ城趾

野島ノ新首サン

山上不動堂

市野々王子

多富氣王子

藤綱ノ要害

神倉山

王子神社趾

渡御前神社

發心門王子權現趾

津井王子社趾

和泉式部供養塔
平忠度誕生地

音無里 音無山 音無川

大阿刀足尼ノ碑

四

天然記念物

- 高野ぐみ
- 檜ノ自生地
- たいきんぎくノ分布
- 菖蒲谷ノ檜
- 明神杉
- 柏ノ大樹(串本)
- 牡丹岩
- 竹 柏
- はかまかづらノ北限自生地
- 自生ノ樺樹
- いちじゆくさぼてん
- シダリス化石
- 水仙ノ自生地
- 地藏ノ大椏
- 羅漢柏
- ねぼたにわたり
- 柏ノ大樹(富里)
- 虫喰岩
- 濱木綿
- 信太ノ樟樹
- アブス
- 白檀ノ老樹
- 枇杷ノ自生林
- あかうノ分布
- 八幡ノ檜
- 高見ノ松
- 柏ノ老樹
- 高野檜ノ自生林
- 宇津木石
- 玉石
- 十五社ノ樟樹
- 椿ノ老樹
- 膽八樹ノ老木

化石(羊齒、蘇鉄等)
ゆのみねしだ
蟻通神社ノ樟樹
古谷石

をがたまのき
びやくしんノ自生地
鬼橋岩
馬目ノ大木

竹 柏
やつしろらん
西濱ノ根上リ松

名勝

蘭澤ノ森

一枚岩

静峽

二、前記ノ選擇ニ漏レタルモノ、保存方法ニ關スル件
以上二件ニツキ協議ヲ遂ゲタル結果第一議題ニ就テハ

史蹟

國分僧寺塔趾
ゆかんとノ森
以上ハ指定申請ヲナスノ價値アルモノト認ム
明慧上人誕生地
右ハ更ニ調査ノ上採否ヲ決定スルコト

國分尼寺塔趾
神倉山

高野山町石

以上ノ外熊野九十九王子ヲ調査シテコレガ保存ノ法ヲ講スルコト

六

天然記念物

高野ぐみ

あかうノ分布

たいきんぎくノ分布

柏楨ノ老樹(潮崎本ノ宮
神社境内)

竹 柏(速王神
社境内)

濱木綿

はがまかづらノ北限自生地

膽八樹ノ老木

ゆのみねしだ

やつしろらん

西瀬ノ根上リ松

古谷石(四牟婁郡
上芳養村)

一枚岩(東牟婁郡
古座川上流)

高野楨ノ自生林(四牟婁郡二川村大字兵生
東牟婁郡七川村大字平井)

以上指定申請ノ價值アルモノト認ム

姥目ノ老樹(日御崎神
社境内)

右ハ更ニ調査ノ上採否ヲ決定スルコト

名勝

瀟 峽

三重、奈良並ニ和歌山ノ三縣打合ノ上之ヲ協定スルコト

第二議題ニ就テハ

一 前記選擇ニ漏レタルモノ、中更ニ調査ノ上指定申請ヲナスノ價值アリト認ムルモノアラハ之ヲ追加スルコト

二 選擇漏レノ中縣ニ於ニ保存ノ必要アリト認メタルモノニ就テハ適宜其ノ方法ヲ講スルコト

三 市町村其ノ他地方公共團體、青年會又ハ保勝會等ヲシテ保存ノ方法ヲ講セシムルヤウ更ニ一段ノ考慮ヲ拂フコト

小川委員外一名ヨリ高野山、那智山ノ如キ豐富ナル植物群ヲ有スル土地ハ全山ヲ包括シテ之ヲ指定保存スルノ道ヲ講ゼラレタシトノ希望アリ最後ニ本會通常會ハ毎年一回之ヲ開ク規程ナルモ今後ハ必要ニ應シテ隨時之ヲ開クコトニ申合セタリ

143
103

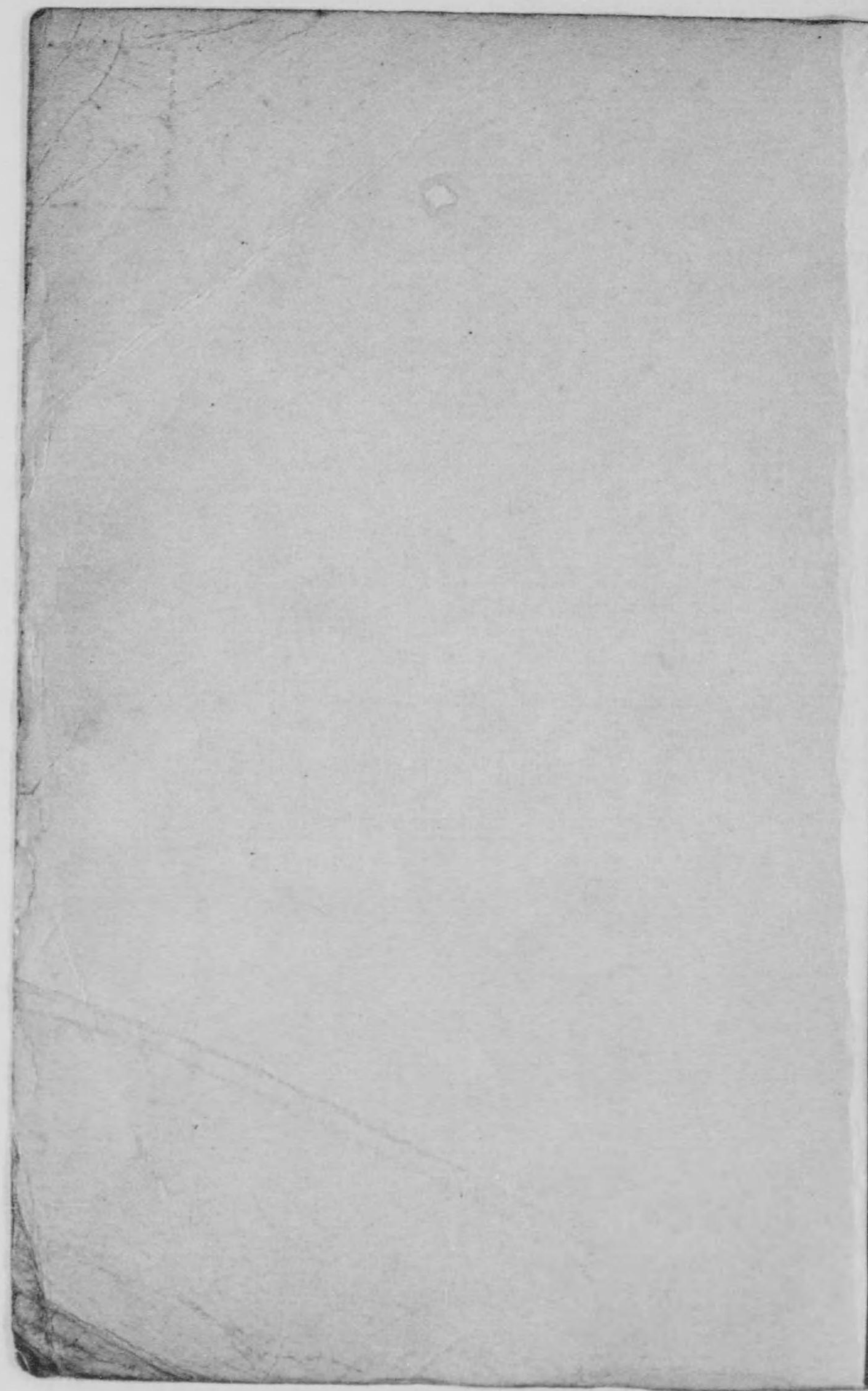
大正十三年三月二十九日印刷
大正十三年五月三十一日發行

(非賣品)

和歌山縣

印刷者 和歌山市久保町一丁目二九番地
由比精三郎

印刷所 和歌山市久保町一丁目二三番地
爲森印刷所



大正十三年三月三十一日
大正十三年三月二十六日

明治三十四年
明治三十五年
明治三十六年
明治三十七年
明治三十八年
明治三十九年
明治四十年
明治四十一年
明治四十二年
明治四十三年
明治四十四年
明治四十五年
明治四十六年
明治四十七年
明治四十八年
明治四十九年
明治五十年
明治五十一年
明治五十二年
明治五十三年
明治五十四年
明治五十五年
明治五十六年
明治五十七年
明治五十八年
明治五十九年
明治六十年
明治六十一年
明治六十二年
明治六十三年
明治六十四年
明治六十五年
明治六十六年
明治六十七年
明治六十八年
明治六十九年
明治七十年
明治七十一年
明治七十二年
明治七十三年
明治七十四年
明治七十五年
明治七十六年
明治七十七年
明治七十八年
明治七十九年
明治八十年
明治八十一年
明治八十二年
明治八十三年
明治八十四年
明治八十五年
明治八十六年
明治八十七年
明治八十八年
明治八十九年
明治九十年
明治九十一年
明治九十二年
明治九十三年
明治九十四年
明治九十五年
明治九十六年
明治九十七年
明治九十八年
明治九十九年
大正元年
大正二年
大正三年
大正四年
大正五年
大正六年
大正七年
大正八年
大正九年
大正十年
大正十一年
大正十二年
大正十三年
大正十四年
大正十五年
大正十六年
大正十七年
大正十八年
大正十九年
大正二十年
大正二十一年
大正二十二年
大正二十三年
大正二十四年
大正二十五年
大正二十六年
大正二十七年
大正二十八年
大正二十九年
大正三十年
大正三十一年
大正三十二年
大正三十三年
大正三十四年
大正三十五年
大正三十六年
大正三十七年
大正三十八年
大正三十九年
大正四十年
大正四十一年
大正四十二年
大正四十三年
大正四十四年
大正四十五年
大正四十六年
大正四十七年
大正四十八年
大正四十九年
大正五十年
大正五十一年
大正五十二年
大正五十三年
大正五十四年
大正五十五年
大正五十六年
大正五十七年
大正五十八年
大正五十九年
大正六十年
大正六十一年
大正六十二年
大正六十三年
大正六十四年
大正六十五年
大正六十六年
大正六十七年
大正六十八年
大正六十九年
大正七十年
大正七十一年
大正七十二年
大正七十三年
大正七十四年
大正七十五年
大正七十六年
大正七十七年
大正七十八年
大正七十九年
大正八十年
大正八十一年
大正八十二年
大正八十三年
大正八十四年
大正八十五年
大正八十六年
大正八十七年
大正八十八年
大正八十九年
大正九十年
大正九十一年
大正九十二年
大正九十三年
大正九十四年
大正九十五年
大正九十六年
大正九十七年
大正九十八年
大正九十九年

終

